

令和 6 年度 老人保健事業推進費等補助金

老人保健健康増進等事業

「日本の介護技術のアジア標準化を目指した介護技術教材の開発及び活用事例に関する調査研究事業」報告書

学校法人 産業医科大学

令和 7（2025）年 3 月

目次

I. 研究の概要	1
1. 研究の目的	
2. 事業実施の概要	
II. 日本の介護技術のアジア標準化を目指した介護技術教材の開発及び 活用事例に関する調査研究	3
1. 目的	
2. 事業の概要	
3. インドネシア現地における模擬研修の評価	
4. 日本で働く特定技能実習生を対象としたアンケート調査	
5. 考察	
6. 今後の展開方針	

I. 研究の概要

1. 研究の目的

少子高齢化の進む我が国では今後介護労働者の不足が生じることが予想される。他産業領域と比較して労働条件が厳しい介護領域は、募集人員数は多いが、労働市場において必ずしも有利な状況にはない。こうした状況を踏まえて、特定技能実習生制度を活用して、外国、特にアジア諸国から介護労働者を採用する動きが活発になっている。しかしながら、言葉や文化の違いのために、介護福祉士試験の合格率は十分なものではなく、基本的な技術を身につけながらも、日本国内で介護福祉士として働くことを断念する特定技能実習生も少なくない。この問題に対処するためには、質の高い外国人介護人材育成のための、より学びやすい学習教材を準備することが必要である。現在、世界各国で、初等教育から高等教育まで、動画教材を用いた教育及び学習が広がっており、高い効果を上げている。このことを参考に、本事業では日本語と母国語に対応した標準的な介護に関する動画教材を開発することを目的とする。

2. 事業実施の概要

(1) iTherapyの概要

iTherapyは本事業の分担者である川副が我が国の介護現場において提供されているサービスをもとに、状態像及びケア行為を分類し、イラストレーションで可視化したものである。現バージョンでは看護観察50項目、リハ生活機能45項目、介護支援・援助の介入45項目の合計140項目（コード）から構成されている。

この開発を行った川副は在宅リハビリテーションを考える会の会員施設と協力し、動画を収集し、それを介護要素に分解し、上記のコードに紐づけ、動画上にイラストを描出した教材を開発している。さらに、作成した教材を生成AIに学習させて、新たに収集した動画に自動的にiTherapyコードを発生させることにも成功している。

(2) 事業の概要

① 多言語教材の準備

本事業では、川副が作成してきた動画教材から、特定技能実習生が介護領域で学べるべき基本項目を選定し、それに日本語の説明を付けたうえで、さらに生成AIを活用して多言語化（今年度は主としてインドネシア語）した。同教材を日本国内、アジア諸国（インドネシアを想定）現地において試用することにより、課題を把握・改善し、日本の介護技術をアジア標準化まで高める作業を行った。

教材は、例えば、起床に関連した動作のうち立ち上がりについてどのような自立度であるかが評価され、それに対応して起居介助が必要であれば、そのことが説明され、動画教材上で音声とイラストで説明が行われる仕様となっている。各動作に対応するiTherapyのイラストを動画上で示すことにより、ケアの内容を具体的に把握できるように工夫した。今年度事業で作成したインドネシア語教材は、全体で5章（移動介助、食事介助、入浴介助、排泄介助、日本の介護の実査）から構成されている。第1章から第4章が、各介護行為の詳細を、そして第5章がそれらが複合的に行われる実際の介護場面となっている。

② 多言語教材を用いた試行研修の実施

10月に作成した動画教材を用いてインドネシアの医療系専門学校（SMK Mandala Bhakti（マンダラ バクティ専門学校））で模擬授業を行い、教材評価に関するアンケート調査を行った。このアンケートを分析した結果をもとに、動画教材の改修を行い、長崎県内で勤務するインドネシア人技能実習生に、改修版を試行的に活用してもらい、その評価をアンケートによって調査した。

③ 事業の結果

インドネシア及び国内のインドネシア人学生・実習生を対象としたアンケートを分析した結果、iTherapyを用いた介護の動画教材の有効性が確認できた。ただし、対象者の日本語及び介護用語のレベルによって、適切な動画教材の形式は異なることが示唆された。具体的には、日本語の理解がまだ不十分な学生・研修生の場合は、特定の介護行為に内容を絞ったショートムービーのようなもの（例えばTikTok）が適切であることが示唆された。実際、インドネシア人学生の多くは、TikTokの自動翻訳機能を使って、日本の介護用語等を学んでいた。しかしながら、これらの教材の内容は玉石混交あり、学習の質を向上させるためには、標準的な教科書に対応した内容のものを作成する必要がある。そこで、本事業ではインドネシアでの模擬研修の後、現地で行った反省会の内容を踏まえて、基本的な介護行為に関する日本語インドネシア語対訳のショートムービーを試行的に作成した。作成したショートムービーは以下のURLで閲覧可能である。

https://www.youtube.com/@itherapy_japancare/shorts

また、実際の介護場面では、日本の日常生活で用いられる言葉や生活行為に対する理解が必要となる。そのためには上記の介護要素をストーリーとして再構成した教材も必要となる。本事業ではこれについても作成し、上記URLで公開している。

ところで、国内のインドネシア人特定技能実習生を対象としたアンケート結果では、大多数の者が「日本の介護の勉強」は難しく、また「日本の介護用語」も難しいと回答している一方で、「日本の介護の試験」については「難しい」と回答した者がほぼ半減していた。特に、施設が用意した資料を用いている実習生は「難しい」と回答している者が20%にとどまっていた。用語が難しくても、回答の選択肢に正解が含まれている現行の択一式の試験は難易度としては下がるものと考えられた。そして、施設が用意している資料においては、介護福祉士の国家試験対策が意識されているものと推察された。試験対策を通して、日本の実際の介護業務の理解を深めるためには、その両者を有機的に連結させた学習教材が必要である。そこで、本事業では、要素別ショートムービーの後ろに、関連する過去の介護福祉士国家試験の問題を日本語・インドネシア語対訳でつける工夫を行った。今後、その有効性を確認しながら、この形式の動画教材の種類を増やす予定である。

Ⅱ. 日本の介護技術のアジア標準化を目指した介護技術教材の開発及び活用事例に関する調査研究

1. 目的

少子高齢化の進む我が国では今後介護労働者の不足が生じることが予想される。他産業領域と比較して労働条件が厳しい介護領域は、募集人員数は多いが、労働市場において必ずしも有利な状況にはない。こうした状況を踏まえて、特定技能実習生制度を活用して、外国、特にアジア諸国から介護労働者を採用する動きが活発になっている。しかしながら、言葉や文化の違いのために、介護福祉士試験の合格率は十分なものではなく、基本的な技術を身につけながらも、日本国内で介護福祉士として働くことを断念する特定技能実習生も少なくない。この問題に対処するためには、質の高い外国人介護人材育成のための、より学びやすい学習教材を準備することが必要である。現在、世界各国で、初等教育から高等教育まで、動画教材を用いた教育及び学習が広がっており、高い効果を上げている。このことを参考に、本事業では日本語と母国語に対応した標準的な介護に関する動画教材を開発することを目的とする。

また、今後、アジア全体の高齢化の進行により、日本以外の国においても介護需要が増大することは確実である。したがって、日本の介護サービスは、その国際化を視野に入れて、今後の展開を考えることが必要である。この際、日本の25年の介護保険の経験をもとに、状態像の評価、サービスの種類などについてアジアの標準をつくることが情報戦略の点からも重要である。そこで本事業では、介護領域における状態像及び提供するサービスについてイラストを用いて標準コード化を行っている iTherapy を用いて、介護に関する多言語動画教材を開発することで、この課題に応えることも事業目的とした。

2. 事業の概要

(1) iTherapy の概要

iTherapy は本事業の分担者である川副が我が国の介護現場において提供されているサービスをもとに、状態像及びケア行為を分類し、イラストレーションで可視化したものである。現バージョンでは看護観察 50 項目（図表 1-1）、リハ生活機能 45 項目（図表 1-2）、介護支援・援助の介入（図表 1-3）45 項目の合計 140 項目（コード）から構成されている。

この開発を行った川副は在宅リハビリテーションを考える会の会員施設と協力し、動画を収集し、それを介護要素に分解し、上記のコードに紐づけ、動画上にイラストを描出した教材を開発している。さらに、作成した教材を生成 AI に学習させて、新たに収集した動画に自動的に iTherapy コードを発生させることにも成功している。

(2) 事業の概要

本事業では、川副が作成してきた動画教材から、特定技能実習生が介護領域で学ぶべき基本項目を選定し、それに日本語の説明を付けたうえで、さらに生成 AI を活用して多言語化（今年度は主としてインドネシア語）する。同教材を日本国内、アジア諸国（インドネシア

を想定) 現地において試用することにより、課題を把握・改善し、日本の介護技術をアジア
標準化まで高める作業を行う。

図表 1-1 iTherapy コード 看護観察 (50 項目)

		看護観察50項目					
1	循環		血圧異常	脈拍異常	体温異常	浮腫	胸痛
2	呼吸		鼻漏鼻閉	息切れ	異常な咳	排痰異常	HOT管理
3	消化		咀嚼嚥下	悪心嘔吐	貧血	腹水	黄疸
4	排出		残尿便秘	排尿便痛	排尿便失禁	血尿血便	人工肛門
3	皮膚		爪の肥厚	乾燥炎症	発疹掻痒	創傷処置	褥瘡管理
5	精神		不安悲嘆	不定愁訴	睡眠障害	孤立状態	無気力
6	薬		処方情報	不適切管理	薬物乱用	要介助服薬	副作用障害
7	栄養		食欲不振	不規則偏食	飲水調整	摂食障害	血糖管理
8	コミュニケーション		難聴補正	視力補正	発音障害	嗜眠昏迷	意識障害
9	衛生		冷暖湿管理	排泄不適切	住環境不潔	口腔の不潔	感染症対応
10	認知		感情不安定	対人トラブル	言動の反復	判断力低下	思考力障害

図表 1-2 iTherapy コード リハ生活機能（45 項目）

リハ生活機能45項目							
1	痛み		不快不調 	創傷痛 	動作支障 	行為不可 	起居困難 
2	起居		寝返り 	起き上がり 	座位 	立ち上がり 	立位保持 
3	移動		移乗介助 	車椅子使用 	介助歩行 	歩行補助具 	歩行リスク 
4	更衣		下衣更衣 	上衣更衣 	靴下と靴 	更衣環境 	更衣自助具 
5	排泄		排排便機能 	トイレ環境 	排泄動作 	衛生用品 	失禁対応 
6	食事		嚥下機能 	食事環境 	配膳環境 	食事動作 	食事自助具 
7	入浴		入浴リスク 	入浴環境 	入槽動作 	洗体動作 	入浴自助具 
8	整容		居室衛生 	洗面動作 	口腔・義歯 	フットケア 	髭剃り・化粧 
9	活動参加		家族の絆 	趣味活動 	外出頻度 	近隣関係 	ボランティア 

図表 1-3 iTherapy コード 介護支援・援助の介入（45 項目）

介護支援・援助の介入／45項目							
1	離床支援		寝具調整	体交除去	起居介助	整容介助	更衣介助
3	排泄支援		排泄用品準備	排尿便管理	トイレ誘導	排泄介助	汚物と便器処
6	衛生環境		洗濯の支援	掃除の支援	周辺家事支援	嗜好品管理	理美容支援
2	住まい		施錠と安否	消毒清潔	加湿調整	物品準備購入	移送・付添い
4	食事支援		栄養状態と嗜好	食事誘導	配膳配食	食事介助	残食と水分管
5	入浴支援		浴室準備	福祉用具調整	入浴誘導	入浴介助	通所入浴支
8	健康と薬		バイタル補助	配役補助	服薬補助	塗布外用補助	点眼補助
7	介護予防		よろず相談	余暇と趣味	運動機会	買物支援	地域交流
9	医療連携		急変時対応	基本情報整理	受診準備同行	指示情報共有	家族連絡調

図表 1-4 実際の介護現場における iTherapy による介護サービスの記述

利用者の状態評価



利用者の状態に応じた介助

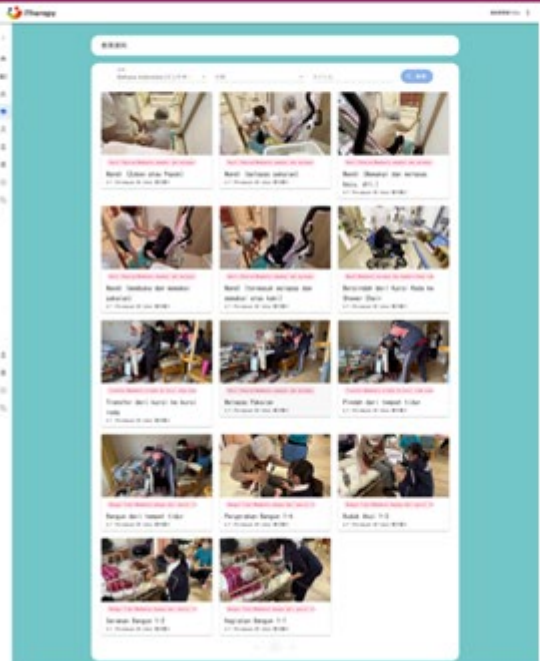


図表 1-4 は実際の介護現場における iTherapy による介護サービスの記述の概要を示したものである。例えば、起床に関連した動作のうち立ち上がりについてどのような自立度であるかが評価され、それに対応いして起居介助が必要であれば、そのことが説明され、動画教材上で音声とイラストで説明が行われる仕様となっている。

図表 1-5-1 今年度事業で作成したインドネシア語教材の概要

iTherapy V4

iTherapy V4の格納事例



インドネシアバージョン Chapter1: 移動の介助



iTherapy V4の格納事例より制作した多言語動画教材

Chapter2 リフトバス 入浴介助	Chapter3 食事介助	Chapter4 排泄介助	Chapter5 日本の介護の実際
			

図表 1-5-1 は今年度事業で作成したインドネシア語教材の概要を示したものである。全体で5章（移動介助、食事介助、入浴介助、排泄介助、日本の介護の実査）から構成されている。第1章から第4章が、各介護行為の詳細を、そして第5章がそれらが複合的に行われる実際の介護場面となっている。図表 1-5-2 に示したように各章は複数の動画教材から構成されている。

図表 1-5-2 今年度事業で作成したインドネシア語教材の概要

iTherapyによる日本の介護技術の多言語動画研修素材一覧

日本介護の動画教材コンテンツ	
：移動の介護（使用製品／介護ベッド）	1.寝返り 2.起き上がり 3.椅座り 4.車椅子への移乗（パターン1：自力で）
：排泄の介護（使用製品／ポータブルトイレ）	1.ベッドからの起き上がり介助 2.ポータブルトイレへの乗り移り 3.衣服の着脱 4.車椅子への移乗（パターン2：軽介助）
：入浴の介護（使用製品／リフトバス）	1.入浴準備と脱衣 2.身体を洗う過程 3.浴槽に入る過程（リフト操作を含む） 4.着衣と入浴アフターケア

図表 1-5-2 今年度事業で作成したインドネシア語教材の概要(続き)

iTherapyによる日本の介護技術の多言語動画研修素材一覧

日本介護の動画教材コンテンツ	
排泄介助（使用製品：成人用オムツ）	1.排泄機能障害（失禁等）の背景 2.排泄介助用品の説明（成人用オムツの種類等） 3.成人用オムツの着脱の実際（実演） 4.排泄介助動画の視聴と説明
食事介助 （使用製品：介護食）	1.食事介助の基本姿勢等の説明 2.食事介助の手順の説明 3.食事介助動画の視聴と説明
日本の介護の実際 （紹介事業：デイサービス事業）	1.日本の介護の実際（介護の技能実習生、日本で活躍する様子の紹介等） 2.日本からiTherapyを遠隔操作し、介護事例を説明するテスト 3.研修プログラムのまとめ

図表 1-6 はインドネシアの学生及び特定技能実習生を対象としたアンケートの内容を示したものである。内容については 10 代の学生にも分かりやすいよう簡便なものとした。

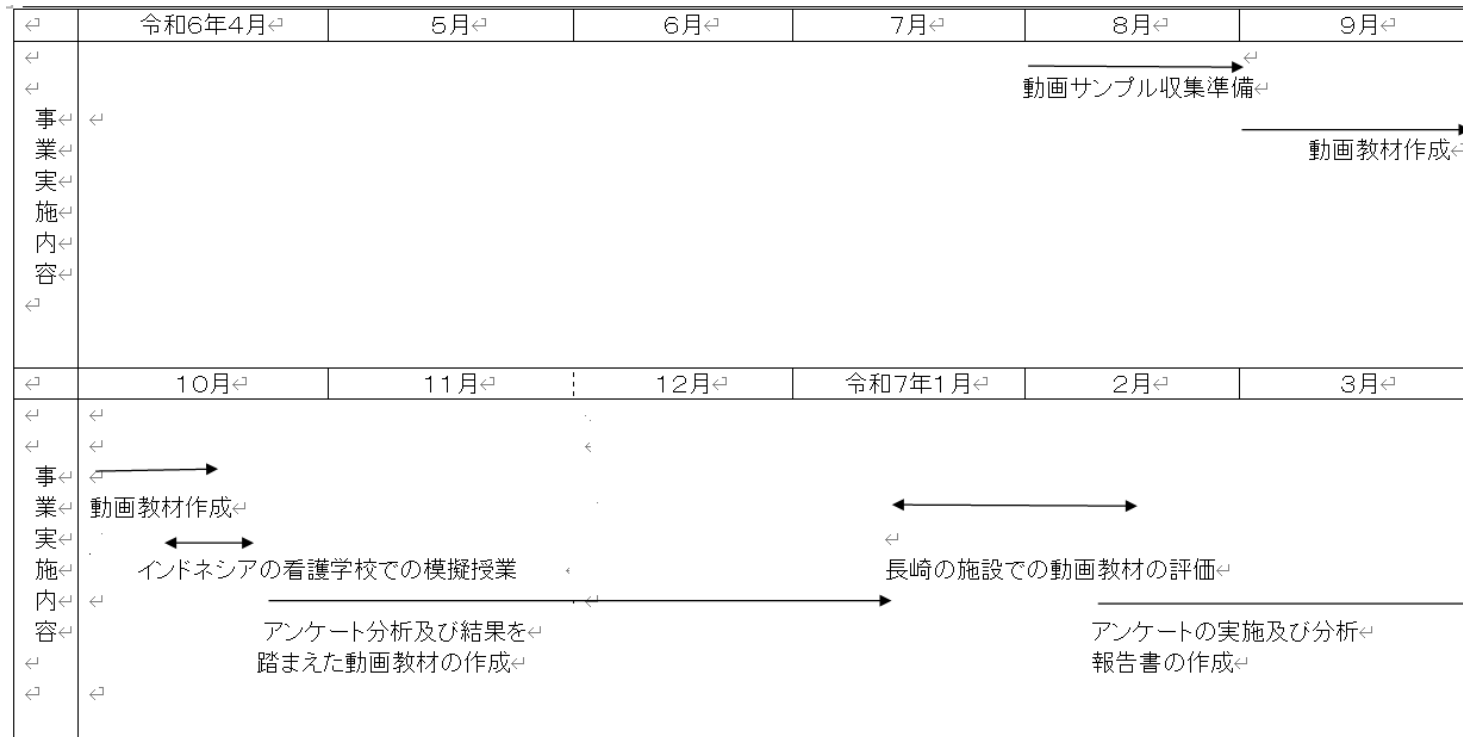
図表 1-6 インドネシアの学生及び特定技能実習生を対象としたアンケートの内容

番号	質問	回答
1	あなたの性別は？ Apa jenis kelamin Anda?	☐ 男性（Laki-laki） ☐ 女性（Perempuan）
2	あなたの年齢は？ Apa jenis kelamin Anda?	☐ 17 ☐ 18 ☐ 19 ☐ 20 ☐ 21 ☐ 22 ☐ 23 ☐ 24 ☐ 25 ☐ 26 ☐ 27 ☐ 28 ☐ 29 ☐ 30 ☐ 31 ☐ 32 ☐ 33 ☐ 34 ☐ 35 ☐ 36 ☐ 37 ☐ 38
3	日本の介護の勉強は難しいですか？ Apakah belajar tentang perawatan lansia di Jepang sulit?	☐ 難しい（Sulit） ☐ 難しく ない（Tidak sulit） ☐ どちらともいえない（Tidak dapat dipastikan）
4	日本の介護の勉強で困ることは何ですか？（複数回答可） Apa saja kesulitan yang Anda hadapi dalam belajar tentang perawatan lansia di Jepang? (Anda dapat memberi tanda pada lebih dari satu jawaban)	☐ 日本の介護の言葉が難しい（Istilah yang digunakan dalam perawatan lansia di Jepang sulit） ☐ 日本の介護の試験が難しい（Ujina perawatan lansia di Jepang sulit） ☐ 困ることはない（Tidak ada kesulitan）
5	日本の介護を勉強する時に使う情報源は何ですか？ Apa sumber informasi yang Anda gunakan saat belajar tentang perawatan lansia di Jepang?	☐ 教科書（Buku teks） ☐ YouTube ☐ Instagram ☐ TikTok

図表 1-6 インドネシアの学生及び特定技能実習生を対象としたアンケートの内容（続き）

番号	質問	回答
6	iTherapyと、多言語動画による日本の介護の研修は、わかりやすかったですか？ Apakah pelatihan keperawatan di Jepang menggunakan iTherapy dan video multibahasa mudah dipahami?	☐ わかりやすかった (Mudah dipahami) ☐ わかりにくかった (Sulit dipahami) ☐ どちらともいえない (Tidak dapat dipastikan)
7	iTherapyで翻訳されたインドネシア語の意味は理解できましたか？ Apakah Anda dapat memahami makna bahasa Indonesia yang diterjemahkan melalui iTherapy?	☐ 理解できた (Dapat dipahami) ☐ 理解できなかった (Tidak dapat dipahami) ☐ どちらともいえない (Tidak dapat dipastikan)
8	iTherapyの動画と教科書とでは、どちらがわかりやすいですか？ Manakah yang lebih mudah dipahami, video iTherapy atau buku teks?	☐ iTherapyの動画 (Video iTherapy) ☐ 教科書 (Buku teks) ☐ どちらともいえない (Tidak dapat dipastikan)
9	iTherapyの動画で日本の介護を勉強すると、介護の技術が上達すると思いますか？ Apakah Anda pikir keterampilan keperawatan Anda akan meningkat dengan belajar tentang perawatan lansia di Jepang melalui video iTherapy?	☐ 上達すると思う (Saya pikir akan meningkat) ☐ 上達しないと思う (Saya pikir tidak akan meningkat) ☐ どちらともいえない (Tidak dapat dipastikan)
10	今後も、iTherapyと動画で日本の介護の研修を続けたいですか？ Apakah Anda ingin melanjutkan pelatihan keperawatan di Jepang menggunakan iTherapy dan video ke depannya?	☐ 続けたい (Ingin melanjutkan) ☐ 続けなくてもいい (Tidak perlu melanjutkan) ☐ どちらともいえない (Tidak dapat dipastikan)

図表 2-1 事業の実施経過



図表 2-1 に事業の実施経過を示した。8 月から協力施設を対象に動画資料の収集に関する事前準備を行い、9 月から 10 月にかけて基本 5 領域（移乗、整容、食事、排泄、入浴）の動画教材を日本語・インドネシア語対応で作成した。10 月に作成した動画教材を用いてインドネシアの医療系専門学校（SMK Mandala Bhakti（マンダラ バクティ専門学校））で模擬授業を行い、教材評価に関するアンケート調査を行った。分析の結果、iTherapy を用いた動画教材は学習に有効であるという評価を得たが、他方で初学者の場合、介護行為や日常生活の種々の場面における日本語とインドネシア語とを対応させたショートムービーが有効であることが明らかとなった。この結果を受けて現在、基本 5 領域におけるショートムービーを作成した。この教材について、1 月に長崎県内の施設で、インドネシア人技能実習生等による評価を行った。

図表 2-2 はインドネシアの協力教育機関（SMK Mandala Bhakti（マンダラ バクティ専門学校））における模擬研修のスケジュールを示したものである。この学校は看護師、薬剤師を育成するための中高一貫校であり、その課程の一部が日本の介護領域の特定技能実習生になるためのコースとなっている。

図表 2-2 インドネシアの協力教育機関における模擬研修のスケジュール

研修タイムスケジュール

進行	日程	時間	詳細
第 1 部	2024年10月21日（月）	13:00～14:00	SMK Mandala Bhaktiの関係者とミーティング →iTherapyで生成した日本の介護技術の多言語動画による研修趣旨の説明、その他、進行の打ち合わせ等
		14:00～14:15	iTherapyの動作確認、動画試聴のセッティング
		14:15～15:00	iTherapyのシステム説明と基本動作の介助の仕方 【Chapter 1 -1／基本動作の介助】
		15:15～16:15	日本の介護技術の多言語動画教材を用いた研修 【Chapter 1 -2／排泄介助】 【Chapter 1 -3／入浴介助】
		16:15～17:00	質疑応答

図表 2-2 インドネシアの協力教育機関における模擬研修のスケジュール（続き）

進行	日程	時間	詳細
第2部	2024年10月22日（火）	10:00～12:00	日本の介護保険について ・インドネシアの保健衛生に関する概論 ・介護保険サービスの紹介（施設、通所系サービス等） ・日本の介護サービスの標準化とiTherapyCodeについて
第3部	2024年10月22日（火）	13:00～14:00	日本の介護技術の多言語動画教材を用いた研修 【Chapter2／食事介助、排泄介助】 ※日本から持参した成人用オムツの着脱を実際に行う等
		14:15～16:00	日本の介護技術の多言語動画教材を用いた研修 【Chapter3／日本介護の実際】 iTherapyを用いた日本⇄インドネシア遠隔研修の試験実施 【リエゾングループ／理学療法士2名、介護福祉士1名】
		16:00～17:00	<u>受講生アンケート</u> 現地関係者を交えた反省会（次回課題の抽出）

模擬研修については、作成した動画教材を用いて理学療法士である川副が講義を行うと同時に、長崎市内の施設（川副が理事長）の職員による説明も行った（写真1）。また、どのような枠組みで働くのかを理解する目的で、日本の医療保険制度、介護保険制度について説明し、日本で特定技能実習生で働く者は公的医療保険の対象となることも説明した（写真2）。外国人ケアワーカーにとってなじみの薄い排泄ケアについては、実際の会三おむつなどの装着方法なども示しながら説明を行った（写真3）。

写真1 インドネシアの協力教育機関における模擬研修の写真

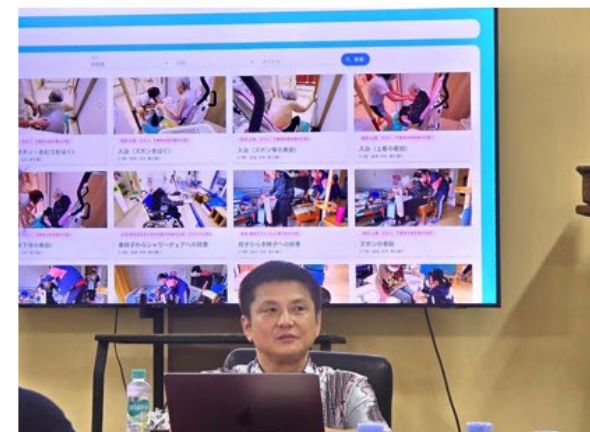
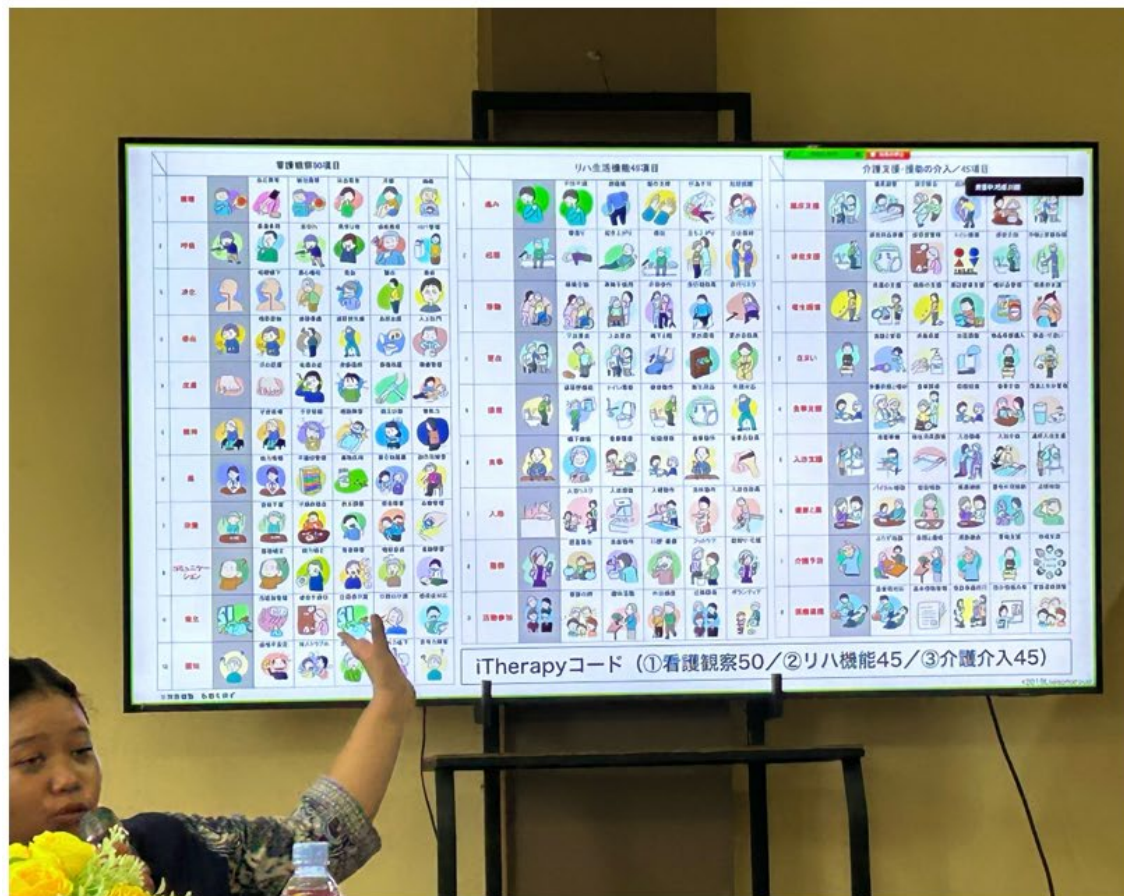


写真2 インドネシアの協力教育機関における模擬研修の写真（続き1）

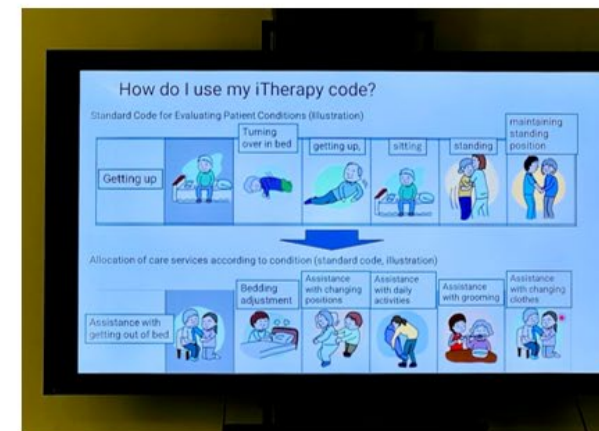
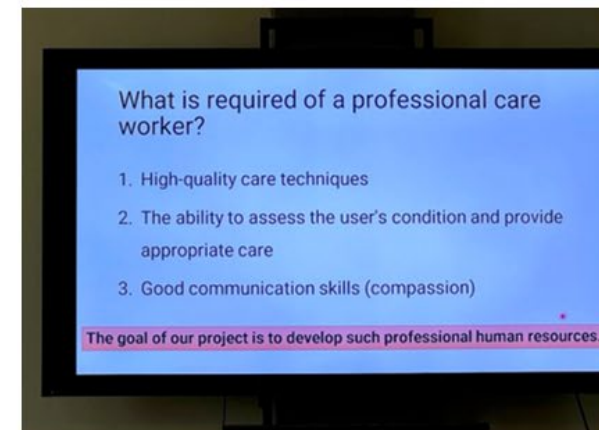


写真3 インドネシアの協力教育機関における模擬研修の写真（続き2）



【実施体制】

松田晋哉 産業医科大学 医学部 公衆衛生学講座 教授

林田賢史 産業医科大学病院 医療情報部 部長

(令和7年1月より 東京大学大学院医学系研究科

社会連携講座ナースングデータサイエンス講座 教授)

川副功成 産業医科大学 医学部 公衆衛生学講座 訪問研究員

リエゾングループ 代表

3. インドネシア現地における模擬研修の評価

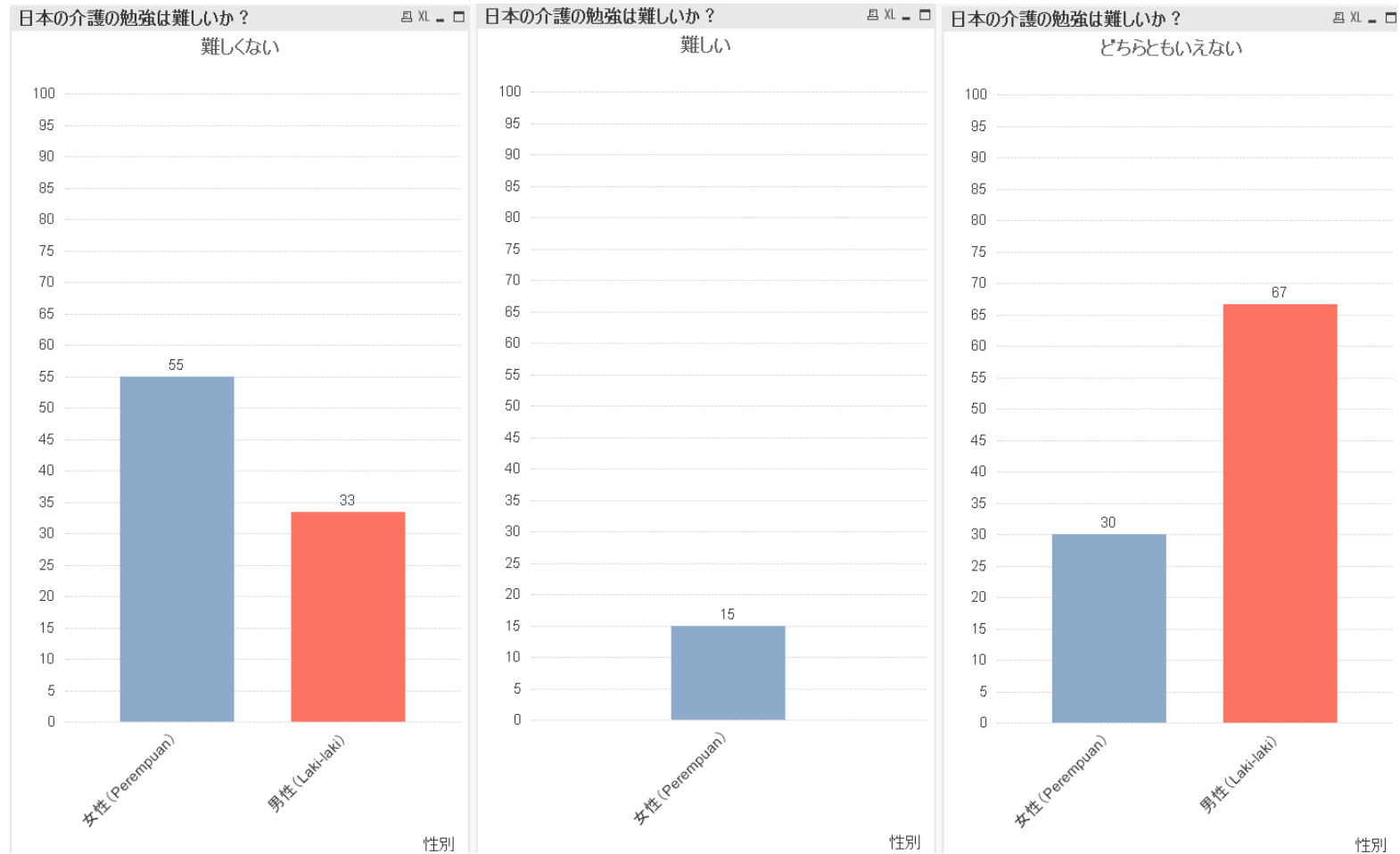
本節では、インドネシアの医療系専門学校（SMK Mandala Bhakti（マンダラ バクティ専門学校））の49名の学生を対象とした模擬授業後に、研修内容についての評価に関するアンケートを分析した結果について説明する。

図表 3-1 受講生の性年齢別人数

性別・年齢別人数			性別	年齢	人数	
					49	
男性(Laki-laki)			17		5	
男性(Laki-laki)			18		3	
男性(Laki-laki)			19		1	
女性(Perempuan)			16		2	
女性(Perempuan)			17		32	
女性(Perempuan)			18		5	
女性(Perempuan)			19		1	

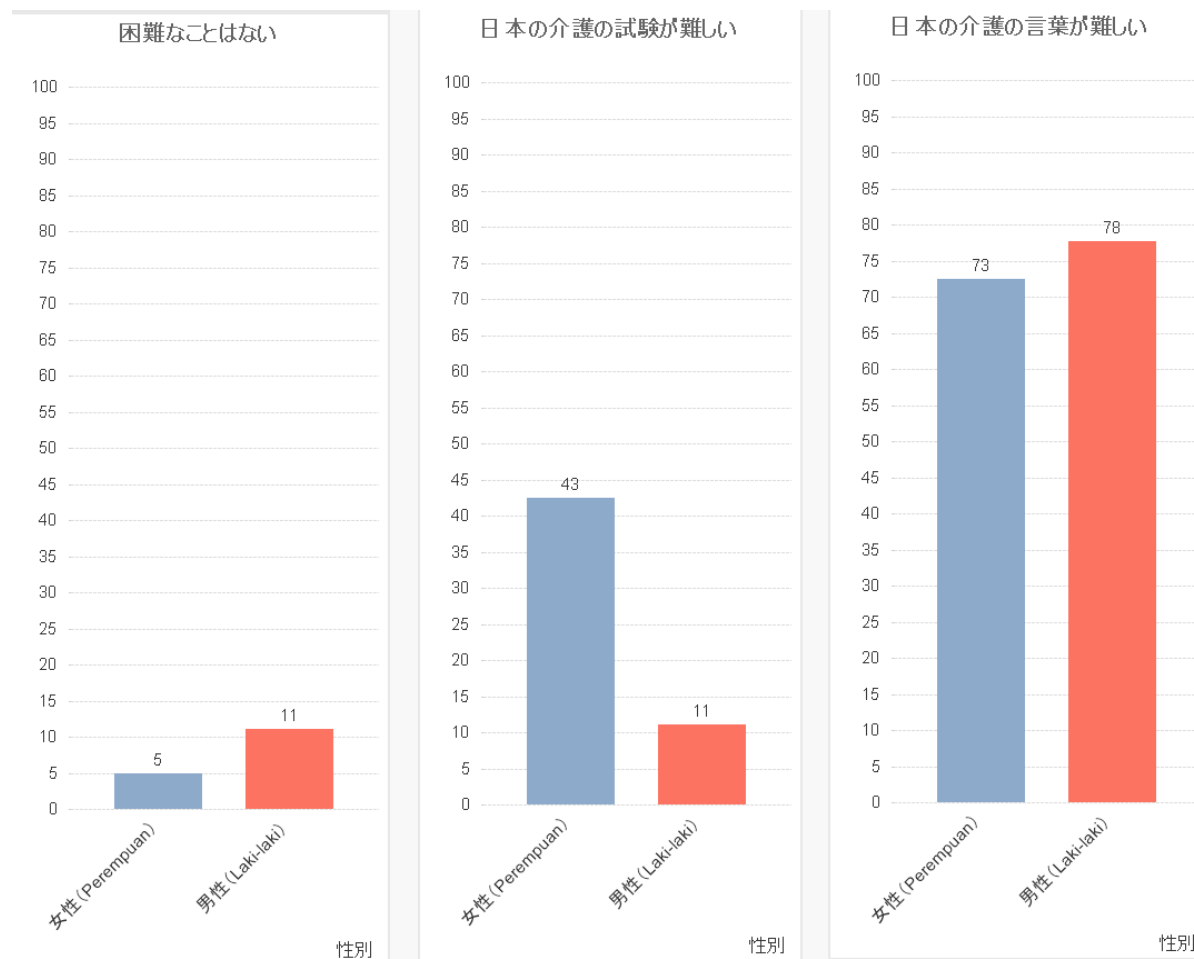
受講生は16歳から19歳で、うち17歳が37名と最も多かった。男女別では男性が9人、女性が40人であった。

図表 3-2 「日本の介護の勉強は難しいですか？」への回答（男女別）



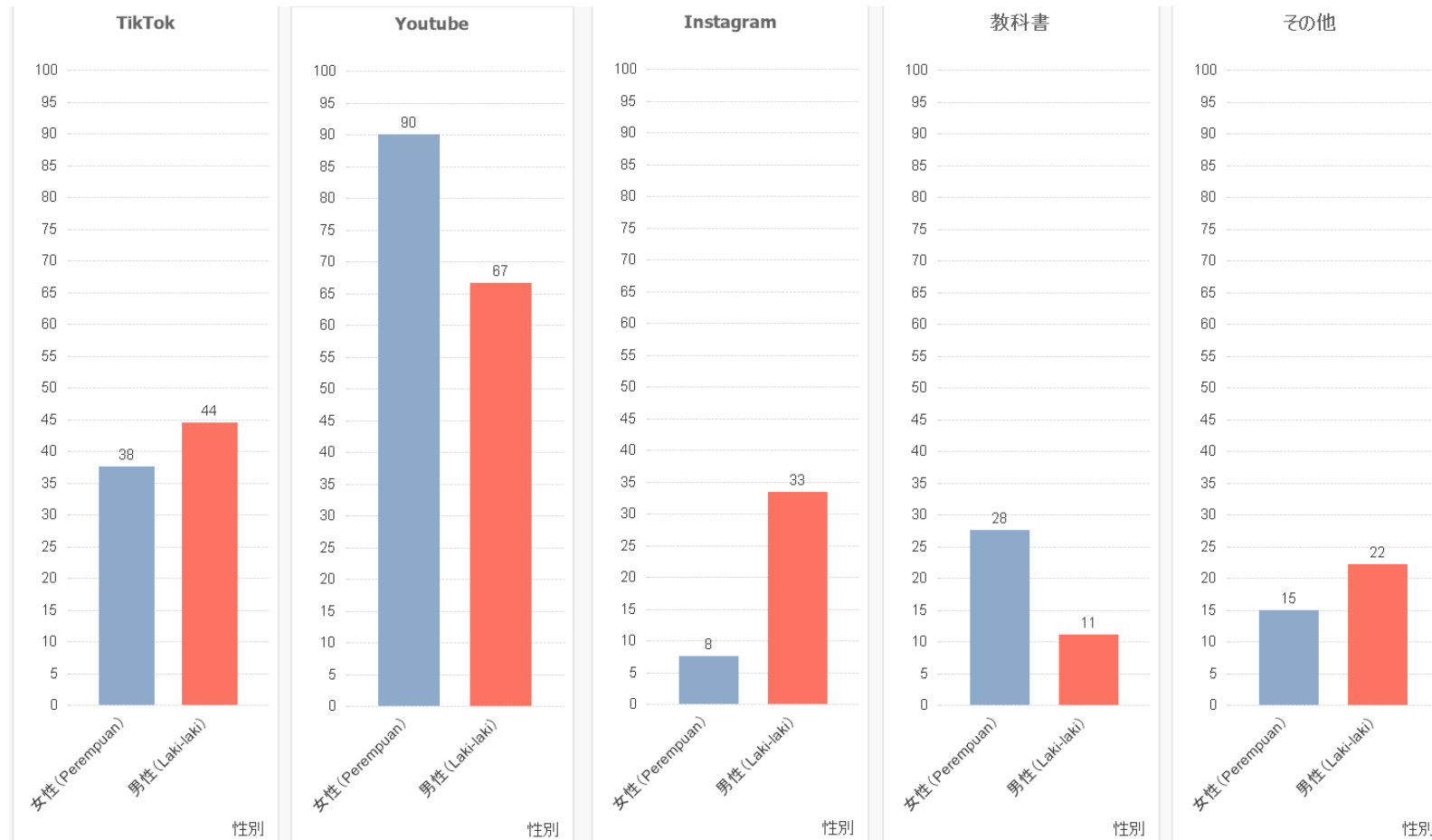
「日本の介護の勉強は難しいですか？」という質問に対して、女性の 55%、男性の 33%は「難しくない」と回答していた。

図表 3-3 「日本の介護の勉強で困ることは何ですか？」への回答（男女別）



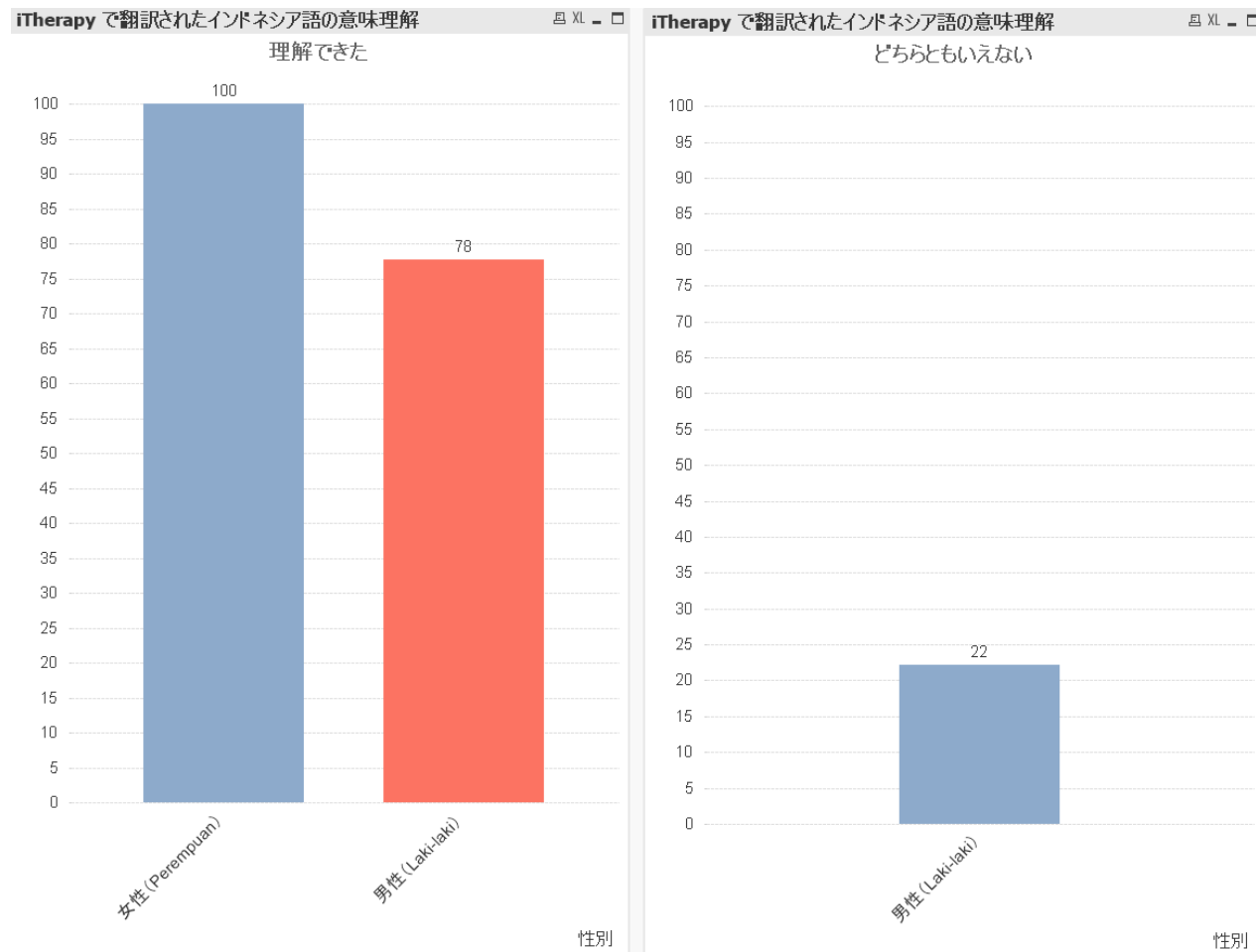
「日本の介護の勉強で困ることは何ですか？」という質問に対して、女性の73%、男性の79%が「日本の介護の言葉が難しい」と回答していた。また、女性の43%、男性の11%が「日本の介護の試験が難しい」と回答していた。

図表 3-4 「勉強方法」の回答（男女別）



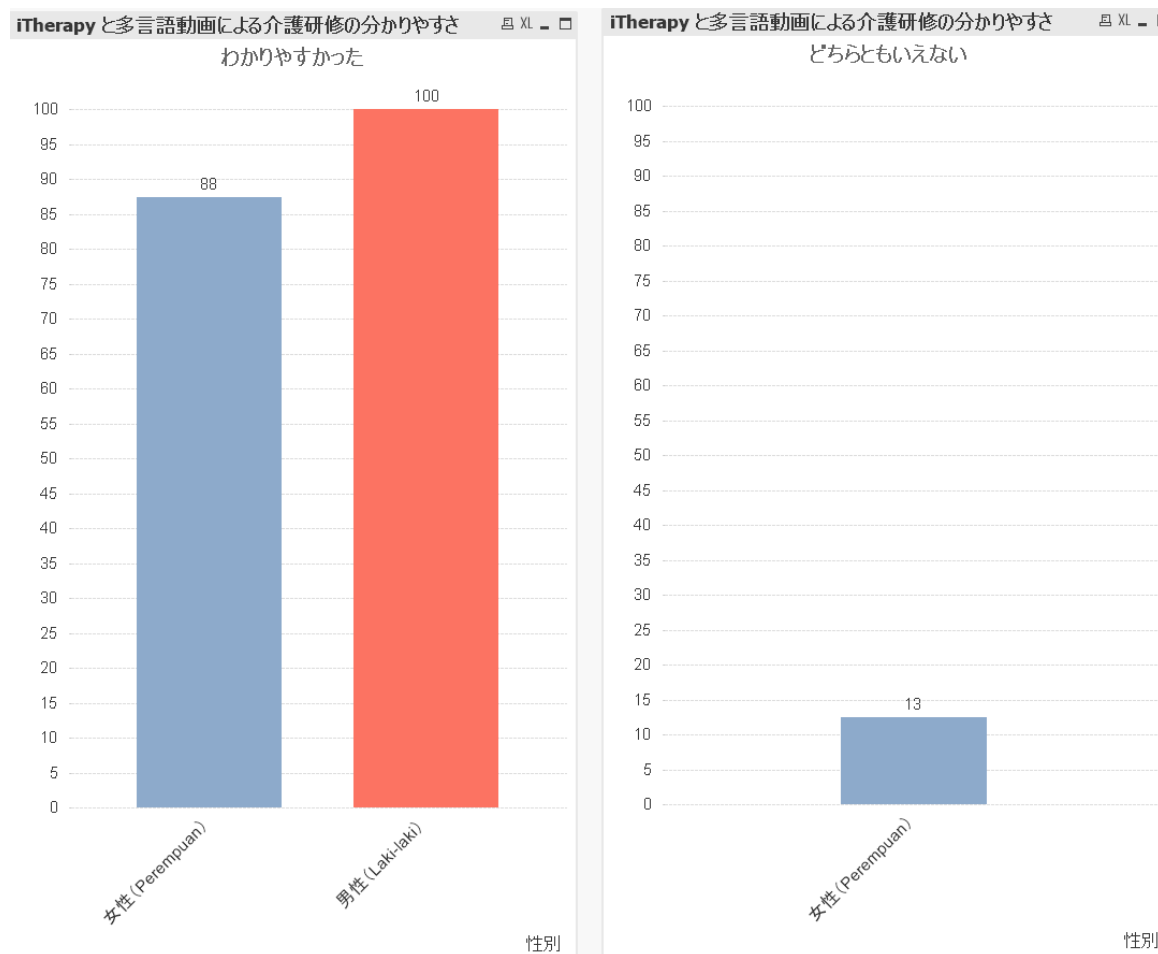
介護の「勉強方法」について尋ねたところ、男女とも Youtube が最も多く（女性 90%、男性 67%）、次いで TikTok が多かった（女性 38%、男性 44%）。また、Instagram は男性で多く（女性 9%、男性 33%）、教科書は女性で多かった（女性 28%、男性 11%）。

図表 3-5 「iTherapy で翻訳されたインドネシア語の意味は理解できましたか？」への回答（男女別）



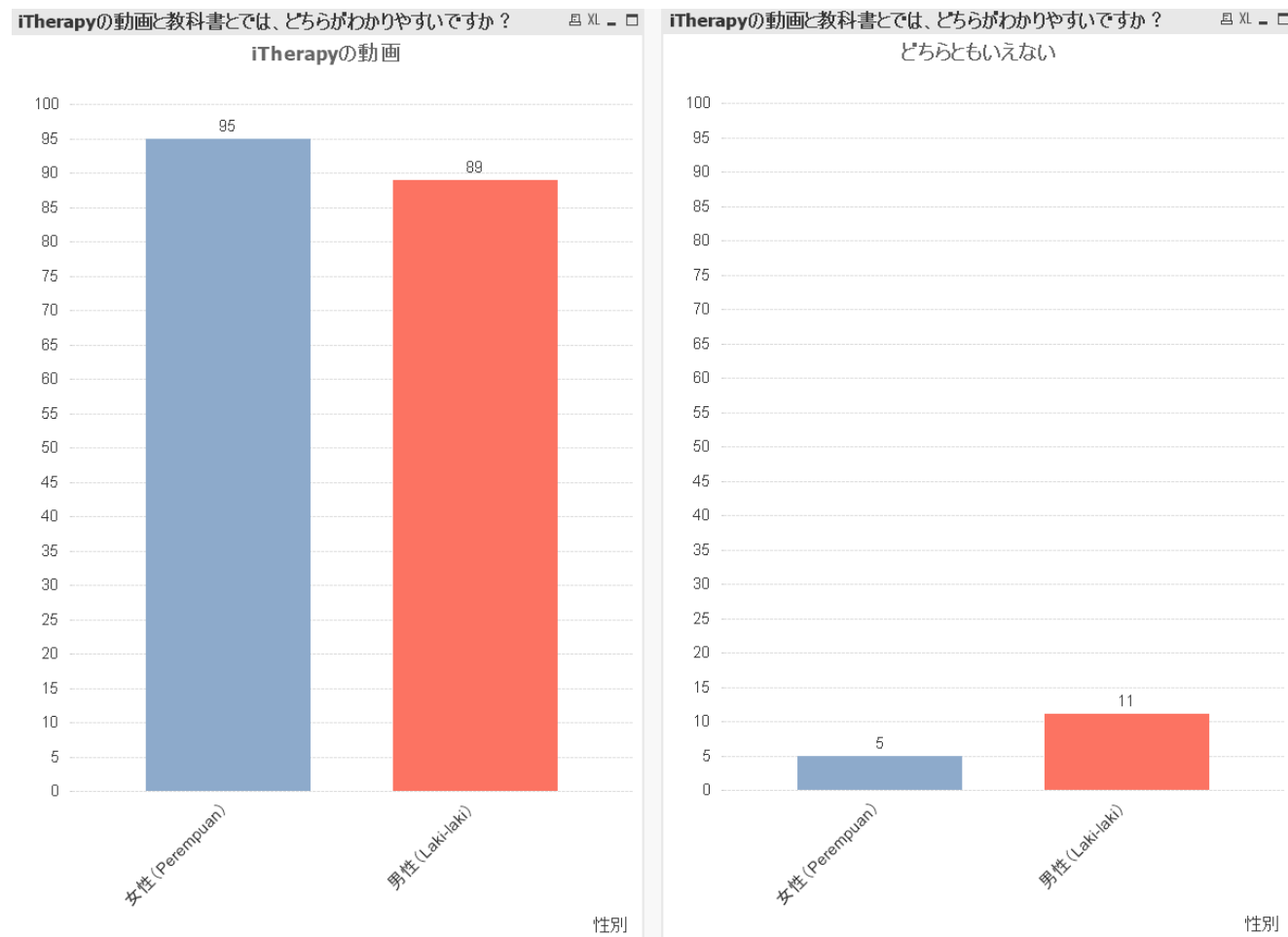
「iTherapy で翻訳されたインドネシア語の意味は理解できましたか？」という質問に対しては女性の 100%、男性の 78%が「理解できた」と回答していた。

図表 3-6 「iTherapy と、多言語動画による日本の介護の研修は、わかりやすかったですか？」への回答（男女別）



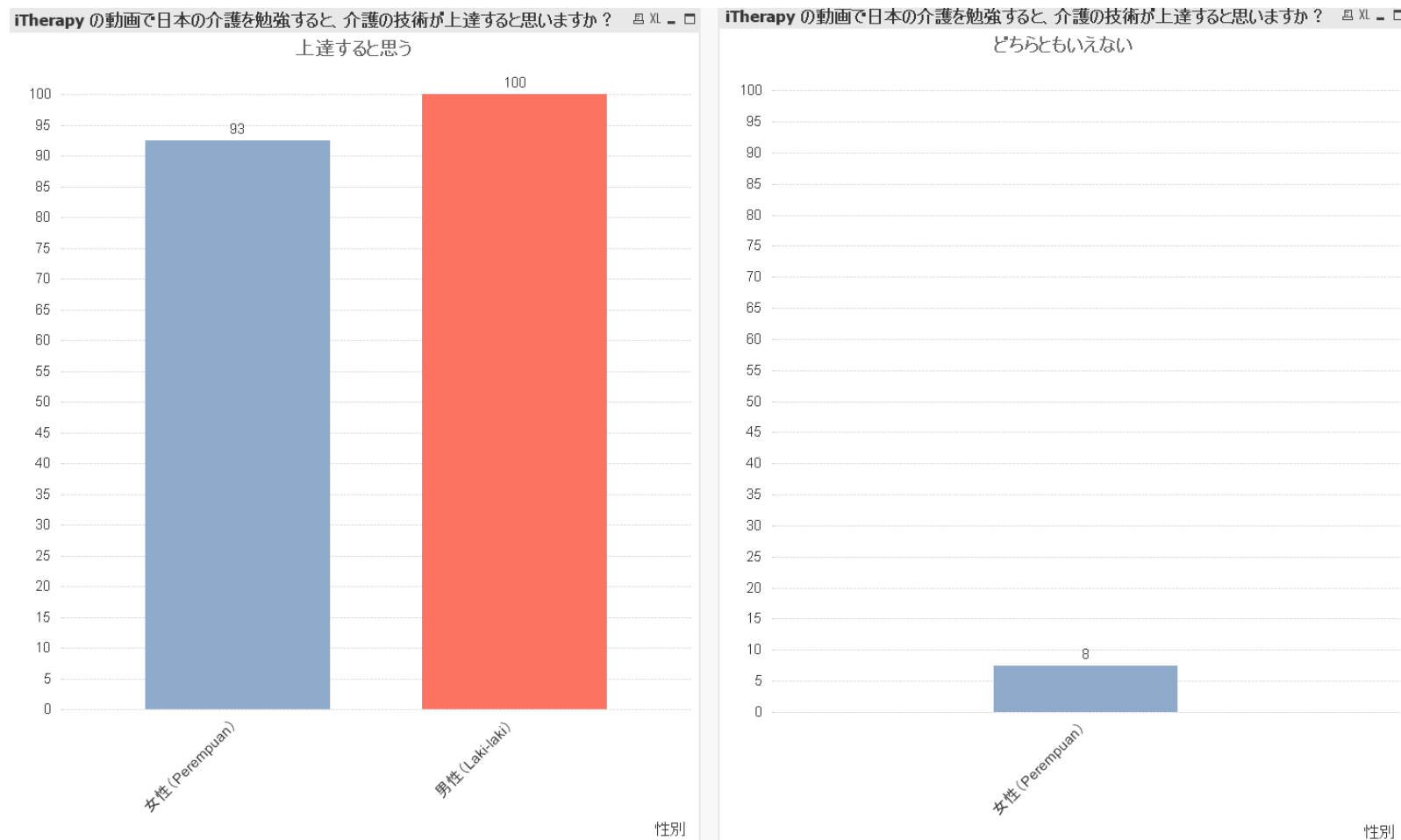
「iTherapy と、多言語動画による日本の介護の研修は、わかりやすかったですか？」という質問に対しては女性の 88%、男性の 100%が「わかりやすかった」と回答していた。

図表 3-7 「iTherapy の動画と教科書とでは、どちらがわかりやすいですか？」への回答（男女別）



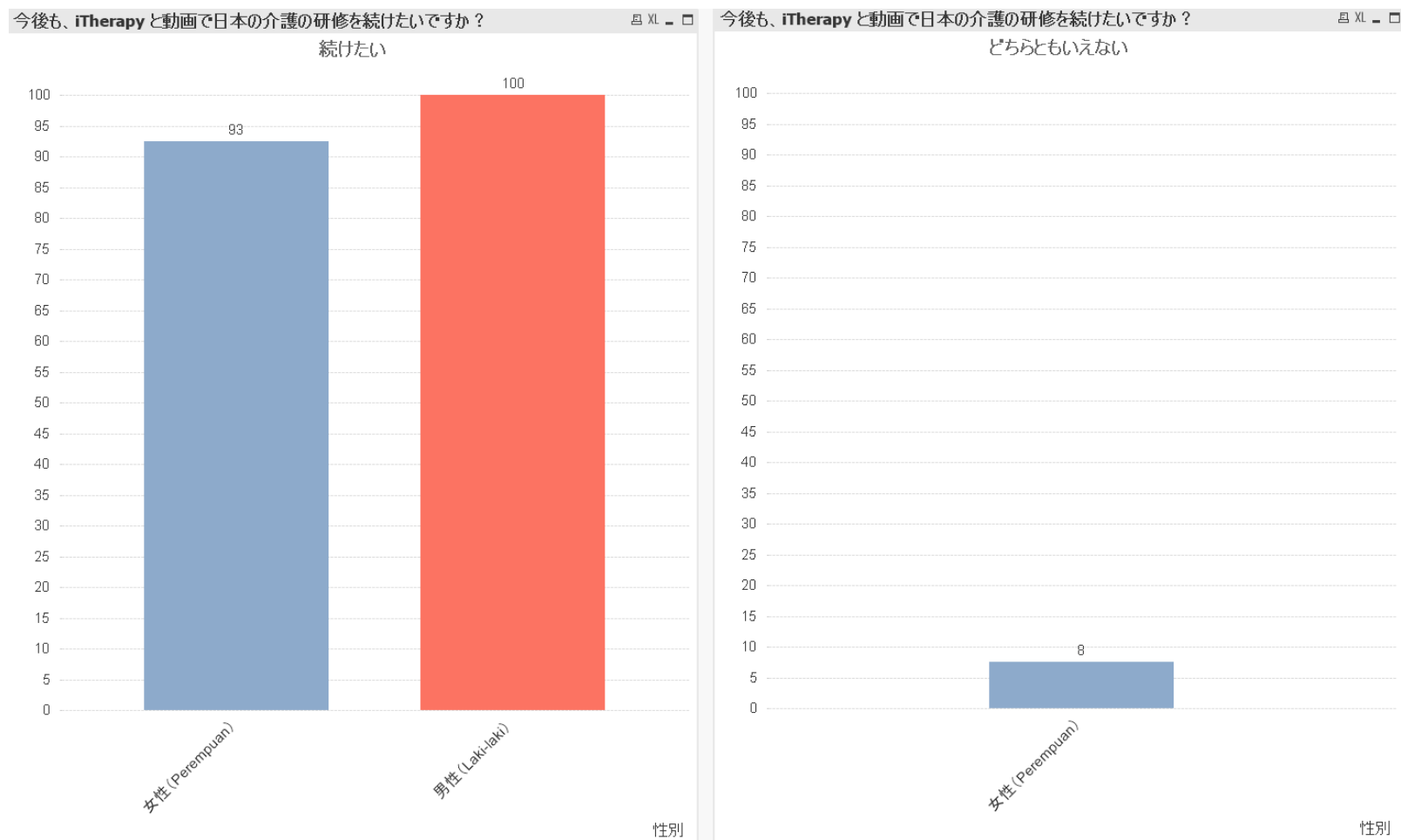
「iTherapy の動画と教科書とでは、どちらがわかりやすいですか？」という質問に対しては女性の 95%、男性の 88%が「iTherapy の動画」と回答していた。

図表 3-8 「iTherapy の動画で日本の介護を勉強すると、介護の技術が上達すると思いますか？」への回答（男女別）



「iTherapy の動画で日本の介護を勉強すると、介護の技術が上達すると思いますか？」という質問に対しては女性の 95%、男性の 88%が「上達と思う」と回答していた。

図表 3-9 「今後も、iTherapy と動画で日本の介護の研修を続けたいですか？」への回答（男女別）



「今後も、iTherapy と動画で日本の介護の研修を続けたいですか？」という質問に対しては女性の 92%、男性の 100%が「続けたい」と回答していた。

図表 3-10 学習手段別にみた「日本の介護の勉強は難しいですか？」への回答

日本の介護の勉強は難しいか？						
	難しくない	難しい	どちらとも言えない	対象者数		
YouTube						
利用無	28.6%	14.3%	57.1%	7		
利用有	55.8%	11.6%	32.6%	43		
合計	52.0%	12.0%	36.0%	50	p=	0.386
Instagram						
利用無	52.3%	13.6%	34.1%	44		
利用有	50.0%	0.0%	50.0%	6		
合計	52.0%	12.0%	36.0%	50	p=	0.550
TikTok						
利用無	51.6%	12.9%	35.5%	31		
利用有	52.6%	10.5%	36.8%	19		
合計	52.0%	12.0%	36.0%	50	p=	0.969
教科書						
利用無	47.4%	7.9%	44.7%	38		
利用有	66.7%	25.0%	8.3%	12		
合計	52.0%	12.0%	36.0%	50	p=	0.044
その他						
利用無	50.0%	14.3%	35.7%	42		
利用有	62.5%	0.0%	37.5%	8		
合計	52.0%	12.0%	36.0%	50	p=	0.509

教科書を用いている者は、「難しくない」と回答している者の割合が有意に高い（有：66.7%、無：47.4%、 $p=0.044$ ）

Youtube を用いている者も統計学的有意差はないが、「難しくない」と回答している者の割合が高い（有：55.8%、無：28.6%、 $p=0.386$ ）

また、その他の手段を用いている者も統計学的有意差はないが、「難しくない」と回答している者の割合が高い（有：62.5%、無：50.0%、 $p=0.509$ ）

Instagram と TikTok については、利用の有無で「難しくない」と回答している者の割合に大きな差はない。

図表 3-11 「日本の介護の勉強は難しいですか？」への回答別に見た学習手段の利用

	YouTube	人数			
難しくない	92.3%	26			
難しい	83.3%	6			
どちらとも言えない	77.8%	18			
合計	86.0%	50	p=	0.386	
	Instagram	人数			
難しくない	11.5%	26			
難しい	0.0%	6			
どちらとも言えない	16.7%	18			
合計	12.0%	50	p=	0.550	
	TikTok	人数			
難しくない	38.5%	26			
難しい	33.3%	6			
どちらとも言えない	38.9%	18			
合計	38.0%	50	p=	0.969	
	教科書	人数			
難しくない	30.8%	26			
難しい	50.0%	6			
どちらとも言えない	5.6%	18			
合計	24.0%	50	p=	0.044	
	その他	人数			
難しくない	19.2%	26			
難しい	0.0%	6			
どちらとも言えない	16.7%	18			
合計	16.0%	50	p=	0.509	

「難しい」と回答している者では教科書を利用する者の割合が有意に高い（難しくない：30.8%、難しい：50.0%、どちらともいえない：5.6%、 $p=0.044$ ）

「難しくない」と回答している者では、統計学的有意差はないが、Youtube を用いている割合が高く（難しくない：92.3%、難しい：83.3%、どちらともいえない：77.8%、 $p=0.386$ ）、また、Instagram（難しくない：11.5%、難しい：0.0%、どちらともいえない：16.7%、 $p=0.386$ ）とその他の手段を用いている割合が高い（難しくない：19.2%、難しい：0.0%、どちらともいえない：16.7%、 $p=0.386$ ）。

TikTok については、「日本の介護の勉強は難しいですか？」への回答別割合に大きな差はない。

図表 3-12 学習手段別にみた「日本の介護の言葉が難しい」と回答した者の割合

YouTube	難しい	人数			
利用無	100.0%	7			
利用有	69.8%	43			
全体	74.0%	50	p=	0.103	
Instagram	難しい	人数			
利用無	75.0%	44			
利用有	66.7%	6			
全体	74.0%	50	p=	0.497	
TikTok	難しい	人数			
利用無	67.7%	31			
利用有	84.2%	19			
全体	74.0%	50	p=	0.170	
教科書	難しい	人数			
利用無	71.1%	38			
利用有	83.3%	12			
全体	74.0%	50	p=	0.331	
その他	難しい	人数			
利用無	71.4%	42			
利用有	87.5%	8			
全体	74.0%	50	p=	0.321	

いずれも統計学的有意差はないが、

Youtube（有：69.8%、無：100.0%、 $p=0.103$ ）

と Instagram（有：66.7%、無：75.0%、 $p=0.497$ ）

を用いている者は、「難しい」と回答している者の割合が、用いていない者より低い。

他方、TikTok（有：84.2%、無：67.7%、 $p=0.170$ ）、教科書（有：83.3%、無：71.1%、 $p=0.331$ ）、

その他の手段（有：87.5%、無：87.5%、 $p=0.321$ ）

を用いている者は「難しい」と回答している者の割合が、用いていない者より高い。

図表 3-13 「日本の介護の言葉が難しい」への回答別に見た学習手段の利用

日本の介護の言葉が難しい				
	YouTube	人数		
難しくない	100.0%	13		
難しい	81.1%	37		
合計	86.0%	50	p=	0.103
	Instagram	人数		
難しくない	15.4%	13		
難しい	10.8%	37		
合計	12.0%	50	p=	0.497
	TikTok	人数		
難しくない	23.1%	13		
難しい	43.2%	37		
合計	38.0%	50	p=	0.170
	教科書	人数		
難しくない	15.4%	13		
難しい	27.0%	37		
合計	24.0%	50	p=	0.331
	その他	人数		
難しくない	7.7%	13		
難しい	18.9%	37		
合計	16.0%	50	p=	0.321

いずれも統計学的有意差はないが、

「難しい」と回答していない者（表では「難しくない」と回答した者は、Youtube（難しくない：100.0%、難しい：81.1%、 $p=0.103$ ）とInstagram（難しくない：15.4%、難しい：10.8%、 $p=0.497$ ）を用いている者の割合が、「難しいと回答した」者より高い。他方、TikTok（難しくない：23.1%、難しい：43.2%、 $p=0.170$ ）、教科書（難しくない：15.4%、難しい：27.0%、 $p=0.331$ ）、その他の手段（難しくない：7.7%、難しい：18.9%、 $p=0.321$ ）では、「難しい」と回答している者における利用割合が、「難しくない」と回答している者より高い。

図表 3-14 学習の特性別に見た対象者の区分（主成分分析、N=50）

	主成分			
	1	2	3	4
年齢	0.283	0.528	0.019	-0.531
性別(男=1、女=2)	-0.221	-0.684	0.333	0.016
日本介護勉強難しさ(難しくない=1, それ以外=0)	-0.169	-0.094	0.728	-0.015
日本の介護の言葉が難しい(難しい=1, それ以外=0)	0.629	-0.167	-0.018	0.490
勉強YouTube(利用有=1, 無=0)	-0.768	-0.163	0.186	0.144
勉強Instagram(利用有=1, 無=0)	-0.134	0.823	0.151	0.197
勉強TikTok(利用有=1, 無=0)	-0.037	0.229	0.048	0.842
勉強教科書(利用有=1, 無=0)	0.225	0.040	0.706	0.064
勉強その他(利用有=1, 無=0)	0.614	0.057	0.332	-0.105
因子抽出法: 主成分分析				
回転法: Kaiser の正規化を伴うバリマックス法				
負荷平方和=63.9%				

学習の特性に関する回答を主成分分析で解析すると4つの因子が抽出された。絶対値が0.4以上のものに着目して解釈すると主成分はそれぞれ以下のように説明された。主成分1（日本の介護の言葉が難しく、勉強手段としてはその他を用い、youtube は用いていない）、主成分2（年齢が高く、また性別では男性で、学習手段としてInstagramを用いている）、主成分3（日本の介護を勉強するのは難しくなく、勉強手段としては教科書を選択）、主成分4（年齢が低く、日本の介護の言葉が難しく、勉強手段としてはTikTokを利用）

アンケート調査の結果については、インドネシア語で準備し、また現地に我々が赴いて講義を行ったということに対するインドネシア高校生の好意的な反応があることを割り引いて考察する必要があるが、以下のようないくつか重要な示唆を得ることができた。

- ① 日本で介護に従事することを希望するインドネシアの高校生は、日本語研修を受けているが、介護の技術に関する試験よりは介護に関する日本語が難しいと感じている。試験に関しては、まず特定技能実習制度に応募する前の段階であるため、試験の具体的なイメージを持っていないと考えられた。
- ② 介護の技術に関する技術については、紙の教科書よりは、ネット上で公開されている動画資料、特にYoutubeとTikTokを利用している者が多かった。
- ③ 因子分析の結果から、介護関連の日本語にまだ慣れていない低学年者に対するTikTok教材、慣れてきた高学年者のためのyoutube教材とそれに対応した教科書（紙版・デジタル版）のそれぞれを開発する必要性があることが明らかとなった。
- ④ 今回試作したiTherapyを用いた動画教材は日本語とインドネシア語を対応させながら

介護技術学ぶことができるため、受講生からわかりやすいという評価を受けることができた。また、ほとんどの受講生が継続して利用したいと回答していた。実際、翌日には10名以上の受講生がYoutube上に準備した iTherapy を用いた動画教材に登録を行っていた。

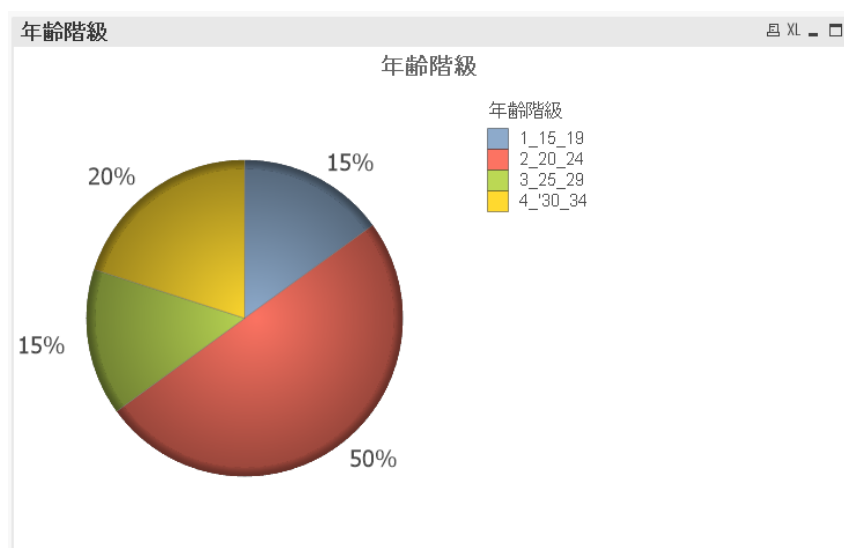
また、研修後に現地の高校の教師（日本語教師を含む）からは、以下のような改善提案をうけることができた。

- ① 社会保険制度や高齢者政策の課題など、日本社会における介護の位置づけに関する背景の情報が欲しい。また、そうした背景について、インドネシアとの違いや類似点（将来予測も含む）を抑えながら説明してもらえると、学生たちの理解度が高まると考えらる。
- ② 今回試作した iTherapy を用いた動画教材は、実際の介護場面を用いているが、iTherapy コードとの対応が必ずしも十分でないところが散見された。モデルを用いて、対応がより明確である動画教材が欲しい。また、動画に関するより詳しい説明（テロップなど）があるとよい。
- ③ 今回準備された教材は、どちらかと言えば、特定技能実習生になって日本で介護福祉士試験に合格するための研修を支援するものであるように思う。本校の学生にとっては、特定技能実習生になるための、インドネシア国内の試験に通る内容のものも欲しい。その意味でも、現在用いている教科書と対応した内容になっていると、学生はより理解しやすいと思う。

4. 日本で働く特定技能実習生を対象としたアンケート調査

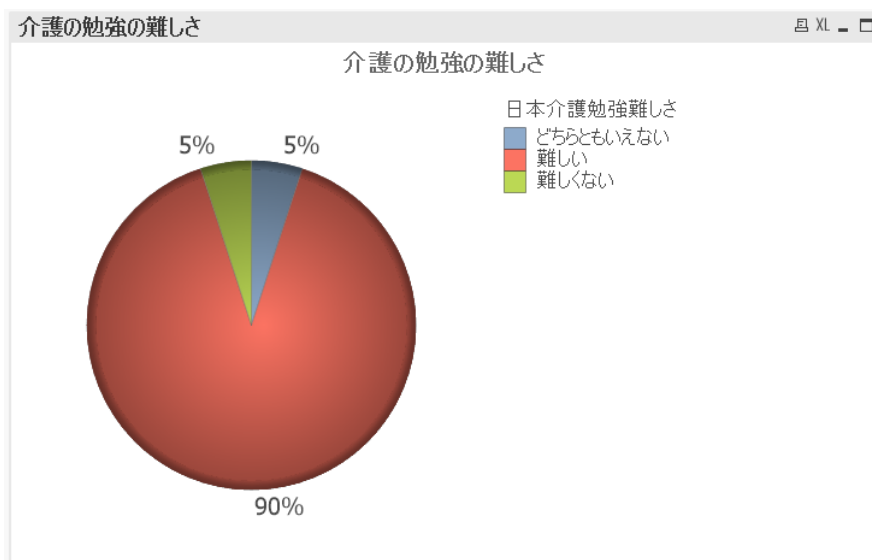
令和7年1月に、長崎市内の介護施設で勤務しているインドネシア人技能実習生20名（女性19名、男性1名）に、iTherapyで作成した介護技能動画教材を視聴してもらい、内容の有効性等について意見調査を行った。本節ではその分析結果を説明する。

図表 4-1 年齢階級の分布



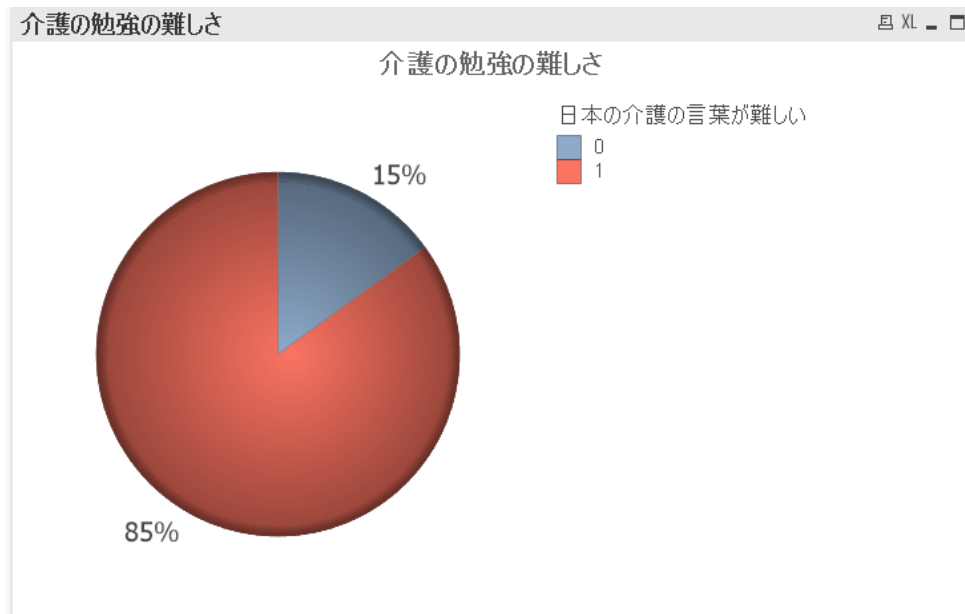
図表 4-1 は年齢階級の分布を示したものである。20-24 歳が 50% で最も多いが、次いで 30-34 歳が 20% と多くなっている。

図表 4-2-1 介護の勉強の難しさの評価



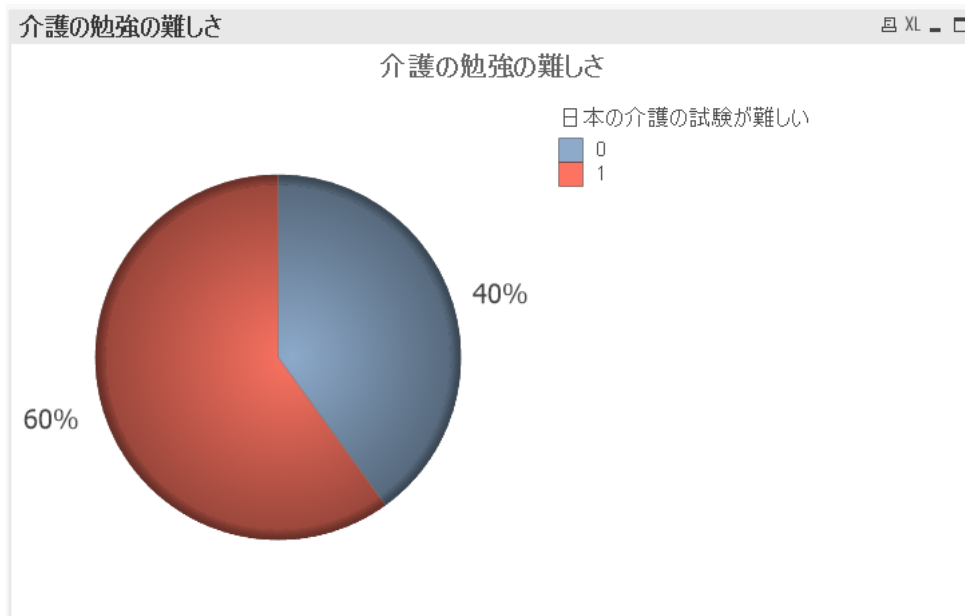
図表 4-2-1 は介護の勉強の難しさについて聞いた結果を示したものである。90%の者が「難しい」と回答している。

図表 4-2-2 日本の介護の言葉の難しさの評価



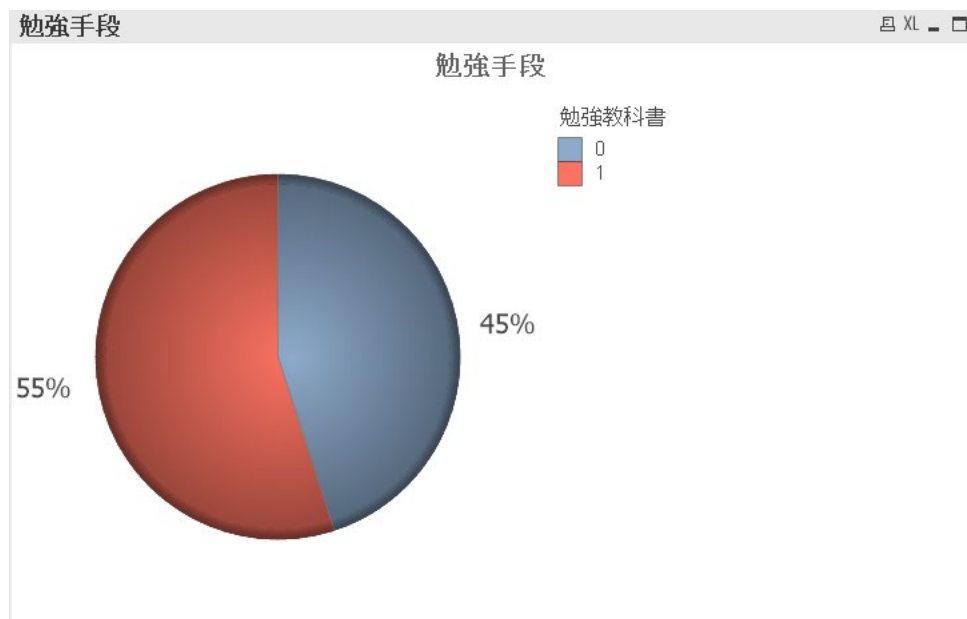
図表 4-2-2 は日本の介護の言葉の難しさについて聞いた結果を示したものである。85%が難しいと回答している。

図表 4-2-3 日本の介護の試験の難しさの評価



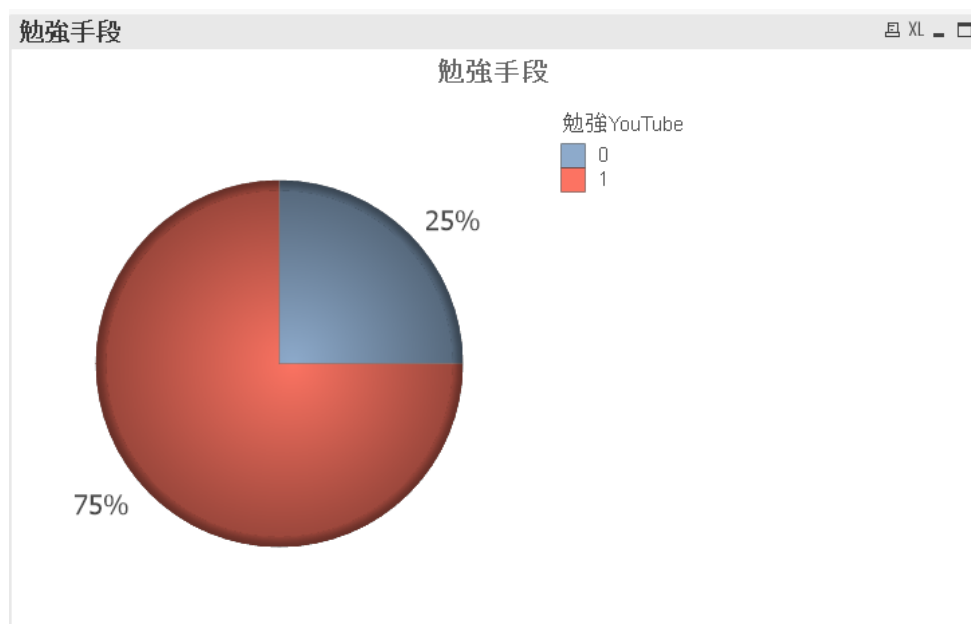
図表 4-2-3 は日本の介護の試験の難しさについて聞いた結果を示したものである。60%が難しいと回答している。難しいと回答している者の割合が、介護の言葉より 25%ポイント低下していることが注目される。

図表 4-3-1 勉強手段として教科書を用いている者の割合



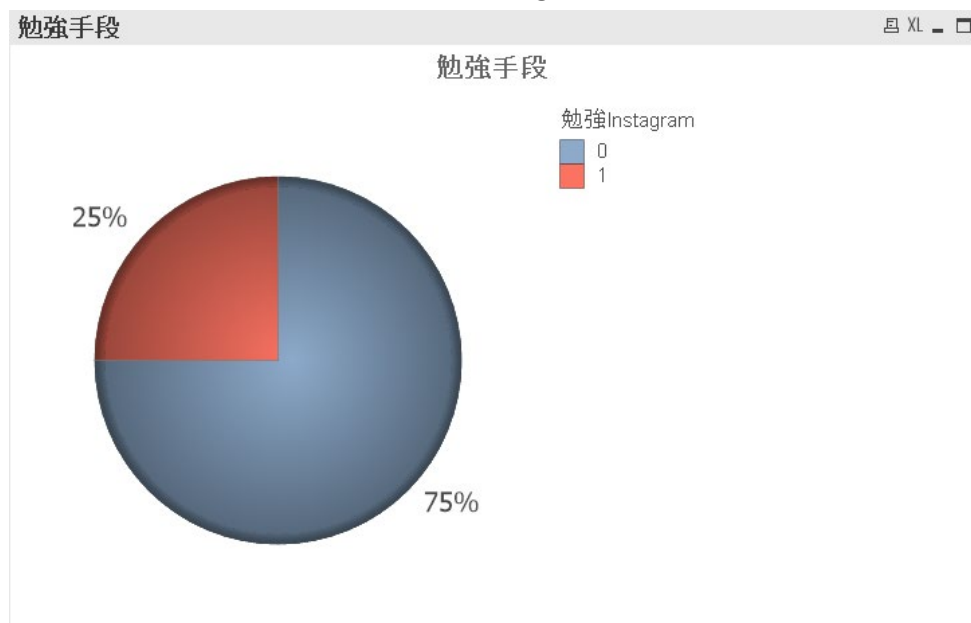
図表 4-3-1 は勉強手段として教科書を用いている者の割合を示したものである。55%が教科書を利用している。

図表 4-3-2 勉強手段として Youtube を用いている者の割合



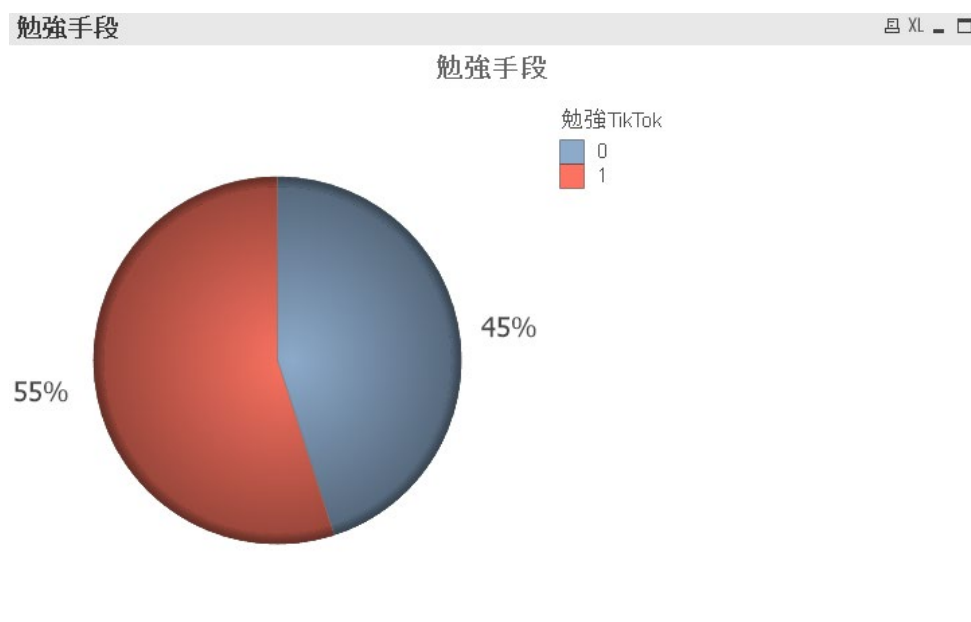
図表 4-3-2 は勉強手段として Youtube を用いている者の割合を示したものである。75%がYoutubeを利用している。

図表 4-3-3 勉強手段として Instagram を用いている者の割合



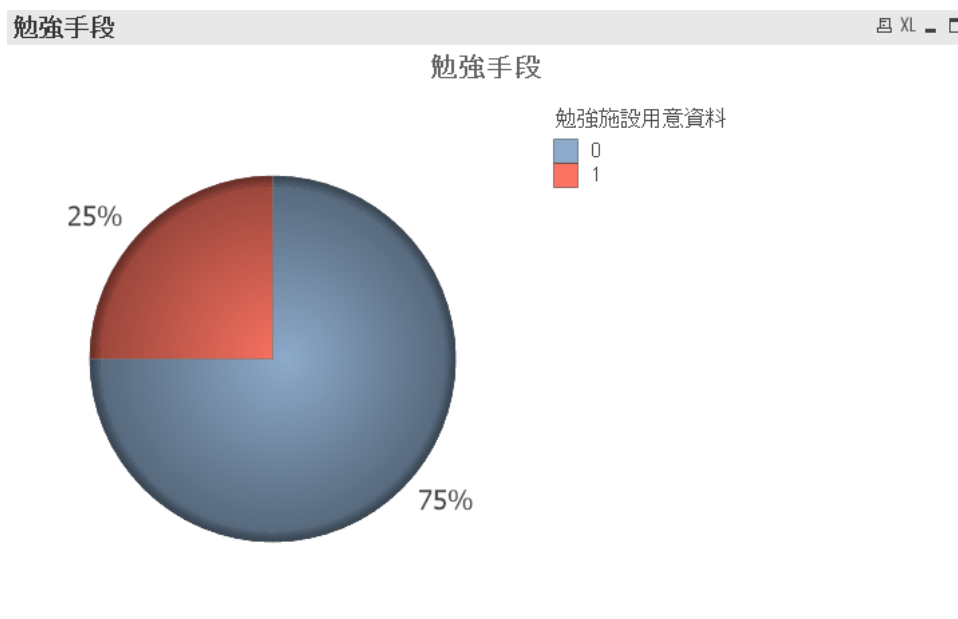
図表 4-3-3 は勉強手段として Instagram を用いている者の割合を示したものである。25% が Instagram を利用している。

図表 4-3-4 勉強手段として TikTok を用いている者の割合



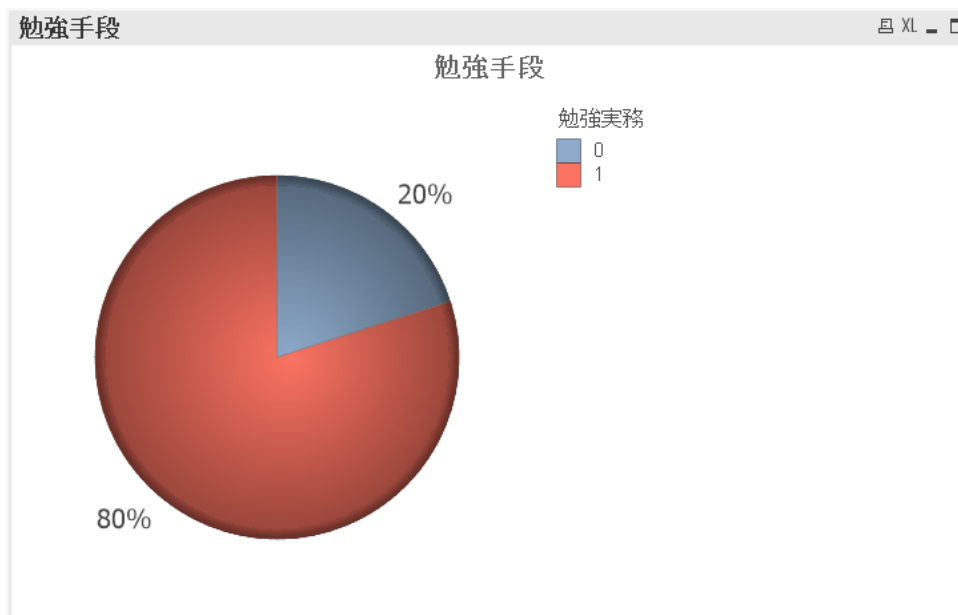
図表 4-3-4 は勉強手段として TikTok を用いている者の割合を示したものである。55% が TikTok を利用している。

図表 4-3-5 勉強手段として施設が用意した資料を用いている者の割合



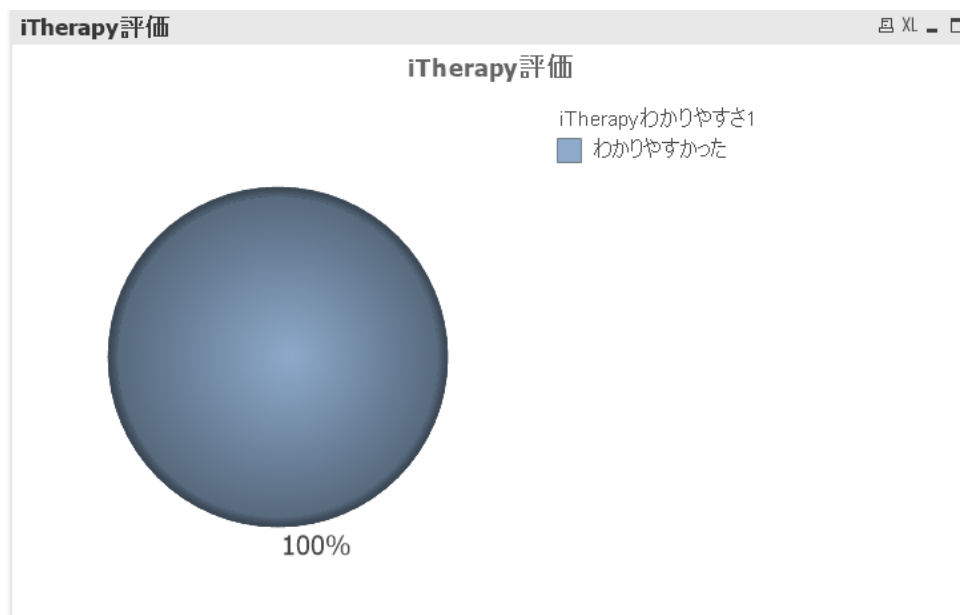
図表 4-3-5 は勉強手段として施設が用意した資料を用いている者の割合を示したものである。25%が施設が用意した資料を利用している。

図表 4-3-6 勉強手段として実務における同僚の支援をあげている者の割合



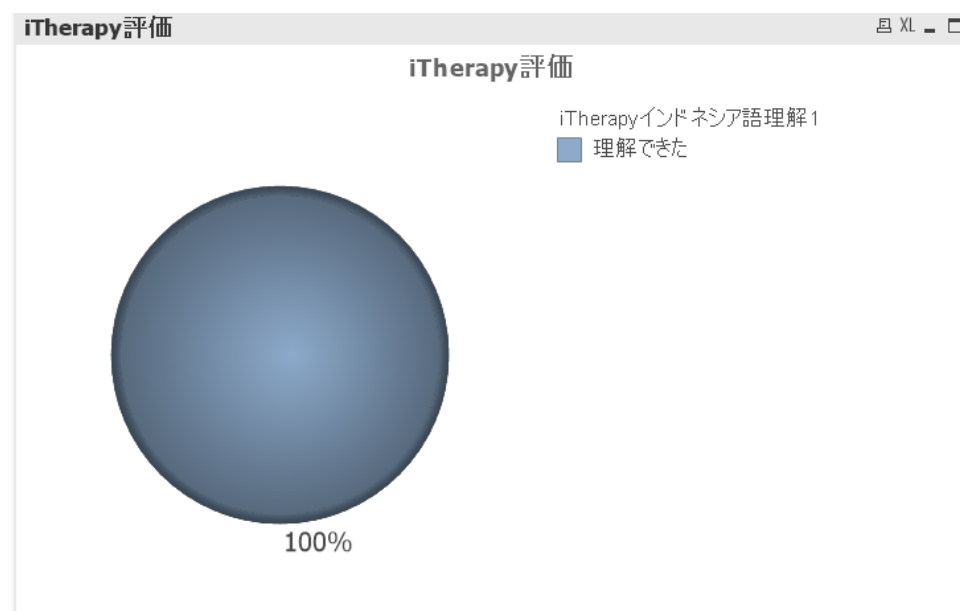
図表 4-3-6 は勉強手段として実務における同僚の支援をあげている者の割合を示したものである。80%が実務における同僚の支援をあげている。

図表 4-4-1 勉強手段としての iTherapy のわかりやすさの評価



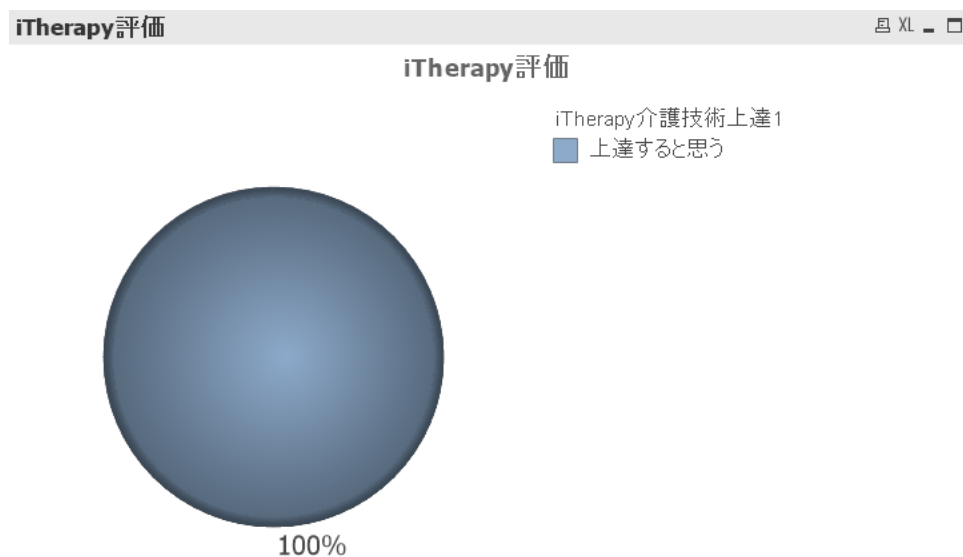
図表 4-4-1 は勉強手段としての iTherapy のわかりやすさの評価を聞いた結果を示したものである。全員が「わかりやすかった」と回答している。

図表 4-4-2 勉強手段としての iTherapy のインドネシア語のわかりやすさの評価



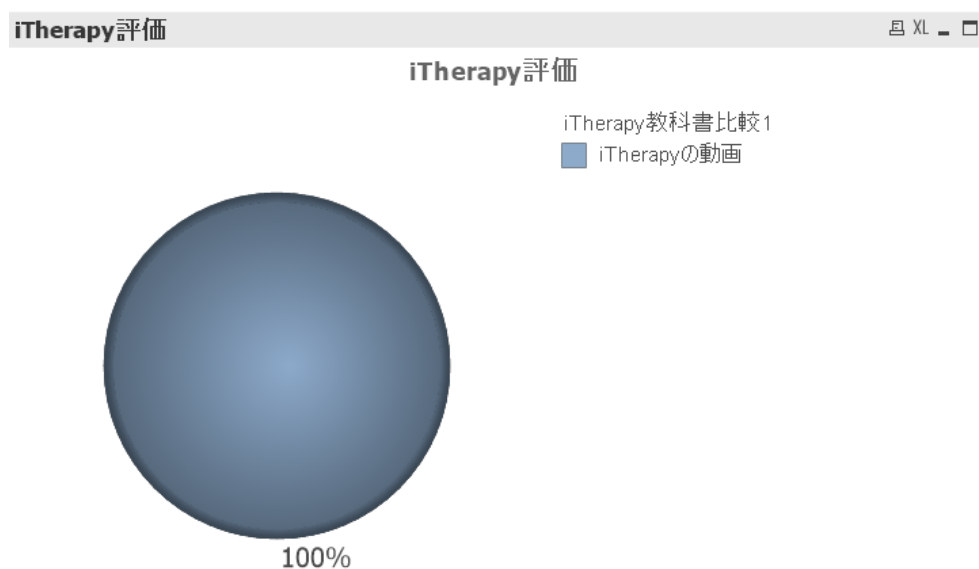
図表 4-4-2 は勉強手段としての iTherapy のインドネシア語のわかりやすさの評価を聞いた結果を示したものである。全員が「理解できた」と回答している。

図表 4-4-3 勉強手段としての iTherapy による介護技術の向上に関する評価



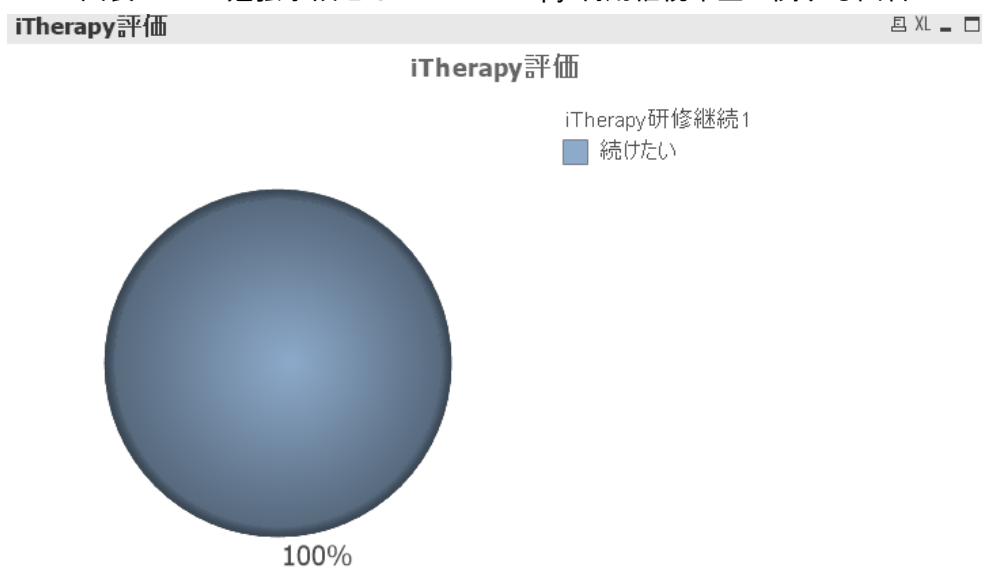
図表 4-4-3 は勉強手段としての iTherapy による介護技術の向上に関する評価を聞いた結果を示したものである。全員が「上達と思う」と回答している。

図表 4-4-4 勉強手段としての iTherapy と教科書のわかりやすさの比較に関する評価



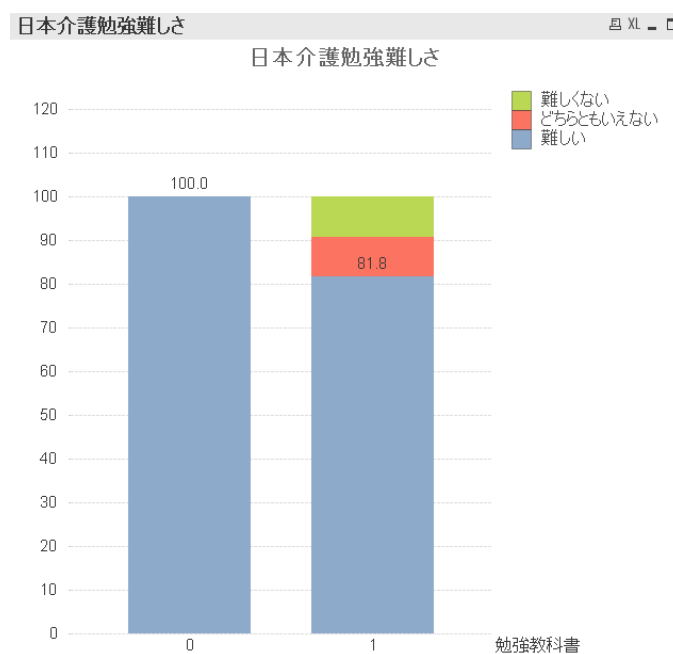
図表 4-4-4 は勉強手段としての iTherapy と教科書のわかりやすさの比較に関する評価を聞いた結果を示したものである。全員が「iTherapy」の方が分かりやすいと回答している。

図表 4-4-5 勉強手段としての iTherapy 利用継続希望に関する回答



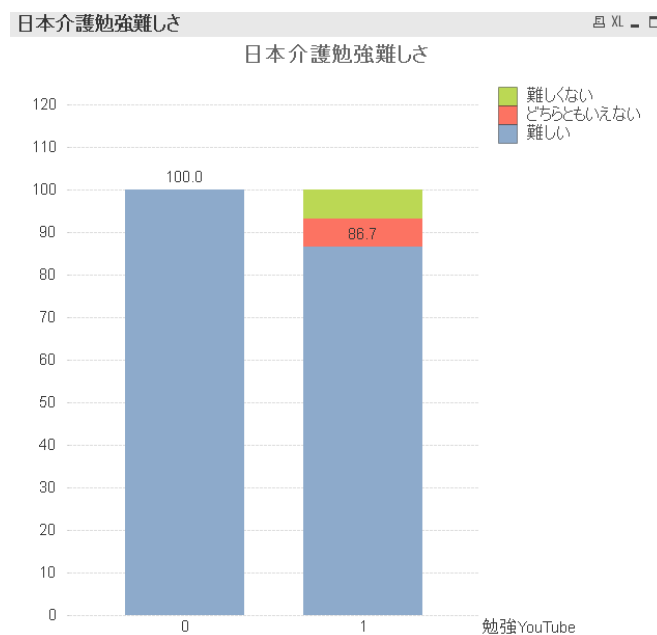
図表 4-4-5 は勉強手段としての iTherapy 利用継続希望に関する回答結果を示したものである。全員が「続けたい」と回答している。

図表 4-3-1 教科書利用の有無別にみた日本の介護勉強の難しさ



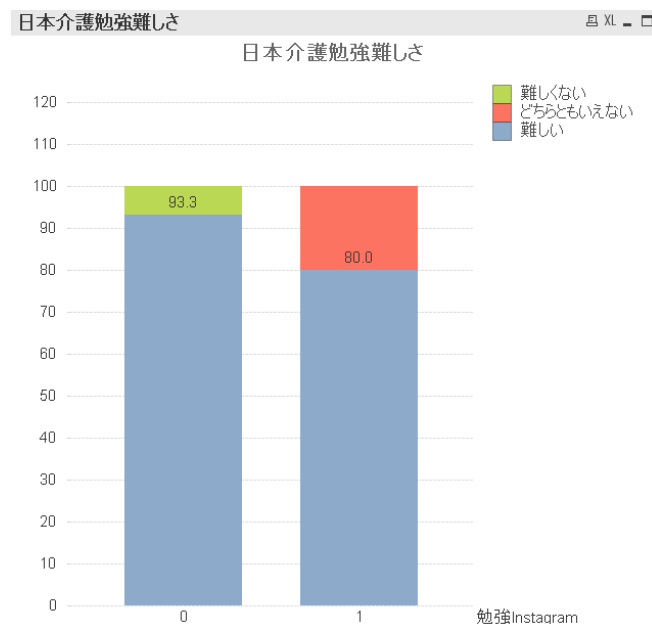
図表 4-3-1 は勉強手段としての教科書利用の有無別にみた日本の介護の勉強の難しさの状況を見たものである。教科書を利用しない者が全員難しいと回答しているのに対し、教科書利用者は 81.9%が難しいと回答している。

図表 4-3-2 Youtube 利用の有無別にみた日本の介護勉強の難しさ



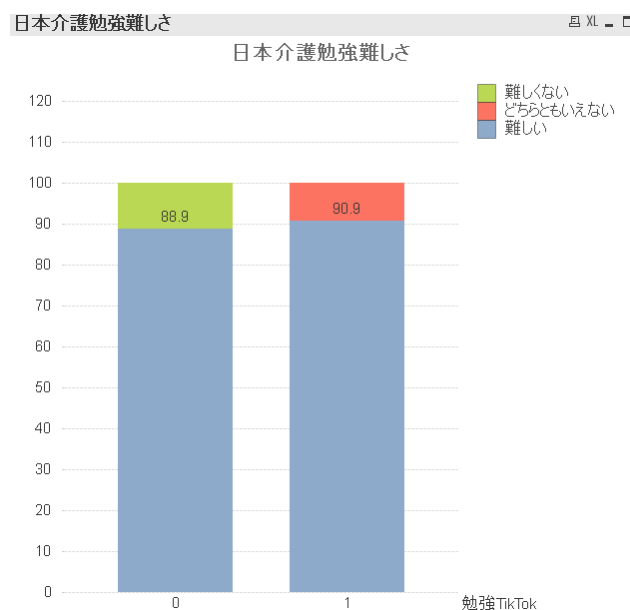
図表 4-3-2 は勉強手段としての Youtube 利用の有無別にみた日本の介護の勉強の難しさの状況を見たものである。Youtube を利用しない者の全員が難しいと回答しているのに対し、Youtube 利用者は 88.7%が難しいと回答している。

図表 4-3-3 Instagram 利用の有無別にみた日本の介護勉強の難しさ



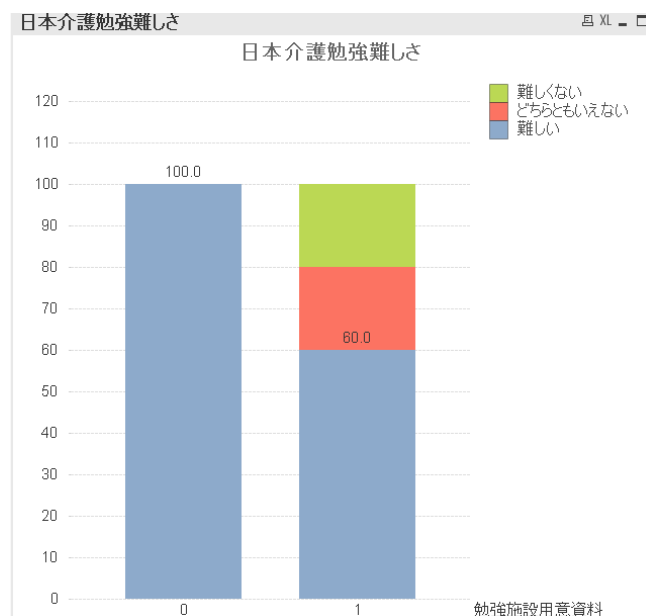
図表 4-3-3 は勉強手段としての Instagram 利用の有無別にみた日本の介護の勉強の難しさの状況を見たものである。Instagram を利用しない者の 93.3%が難しいと回答しているのに対し、Instagram 利用者は 80.0%が難しいと回答している。

図表 4-3-4 TikTok 利用の有無別にみた日本の介護勉強の難しさ



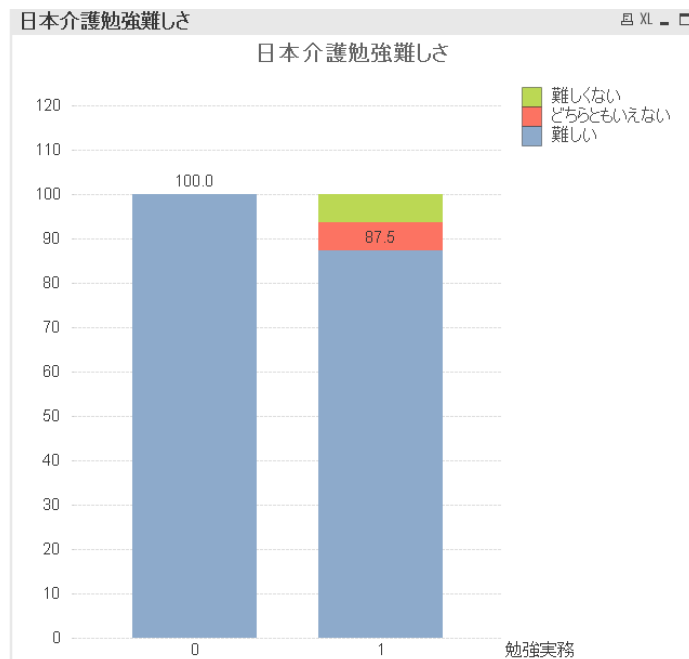
図表 4-3-4 は勉強手段としての TikTok 利用の有無別にみた日本の介護の勉強の難しさの状況を見たものである。TikTok を利用しない者の 88.9%が難しいと回答しているのに対し、TikTok 利用者は 90.9%が難しいと回答しており、両群には差がない。

図表 4-3-5 施設が用意した資料利用の有無別にみた日本の介護勉強の難しさ



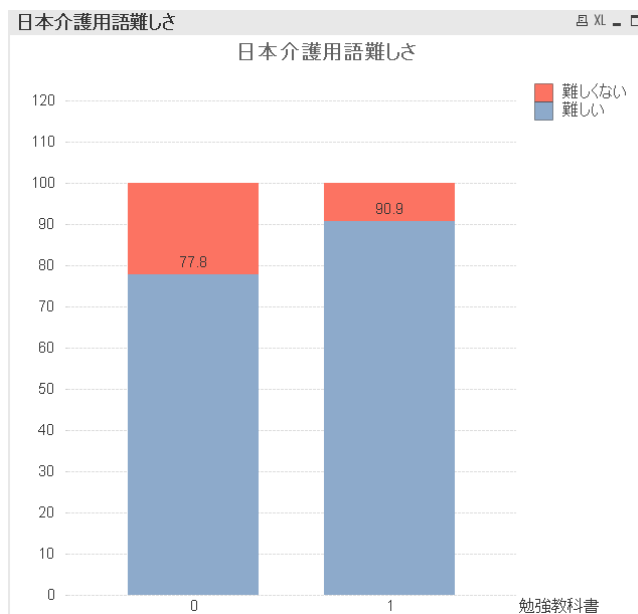
図表 4-3-5 は勉強手段としての施設が用意した資料利用の有無別にみた日本の介護の勉強の難しさの状況を見たものである。施設が用意した資料を利用しない者の全員が難しいと回答しているのに対し、施設が用意した資料利用者は 60.0%が難しいと回答している。

図表 4-3-6 施設の同僚による実務指導の有無別にみた日本の介護勉強の難しさ



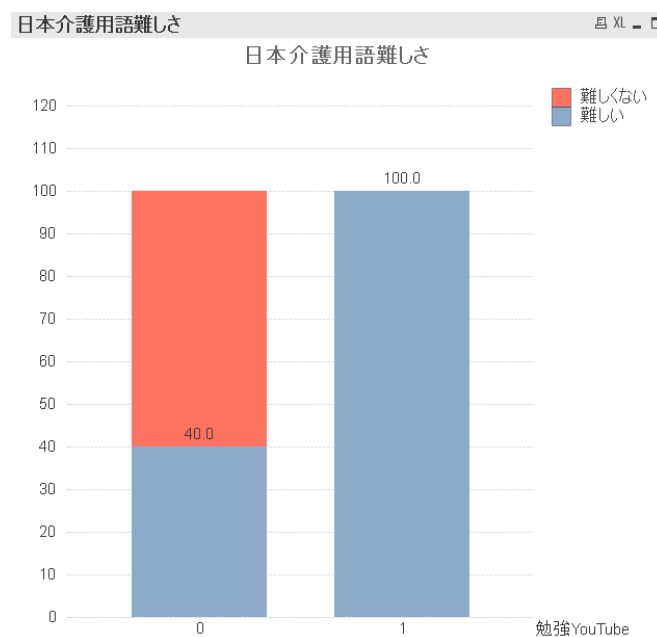
図表 4-3-6 は勉強手段としての施設の同僚による実務指導の有無別にみた日本の介護の勉強の難しさの状況を見たものである。同僚による実務指導がない者が全員難しいと回答しているのに対し、同僚による実務指導がある者は 87.5%が難しいと回答している。

図表 4-4-1 教科書利用の有無別にみた日本の介護用語の難しさ



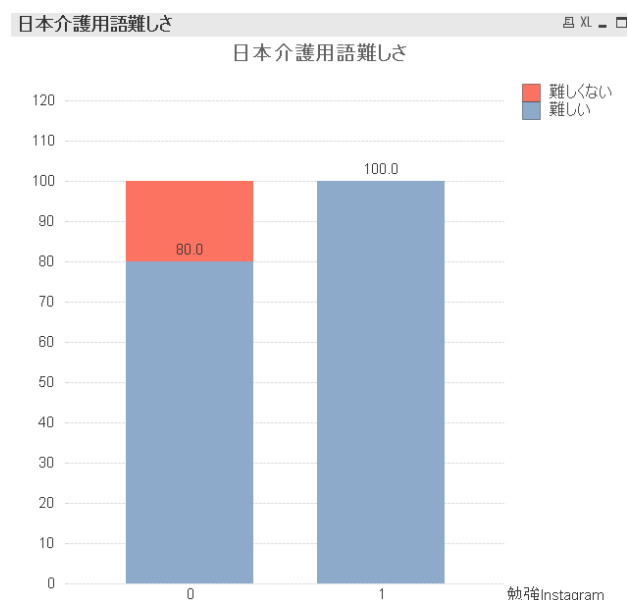
図表 4-4-1 は勉強手段としての教科書利用の有無別にみた日本の介護用語の難しさの状況を見たものである。教科書を利用しない者 77.8%が難しいと回答しているのに対し、教科書利用者は 90.9%が難しいと回答している。

図表 4-4-2 Youtube 利用の有無別にみた日本の介護用語の難しさ



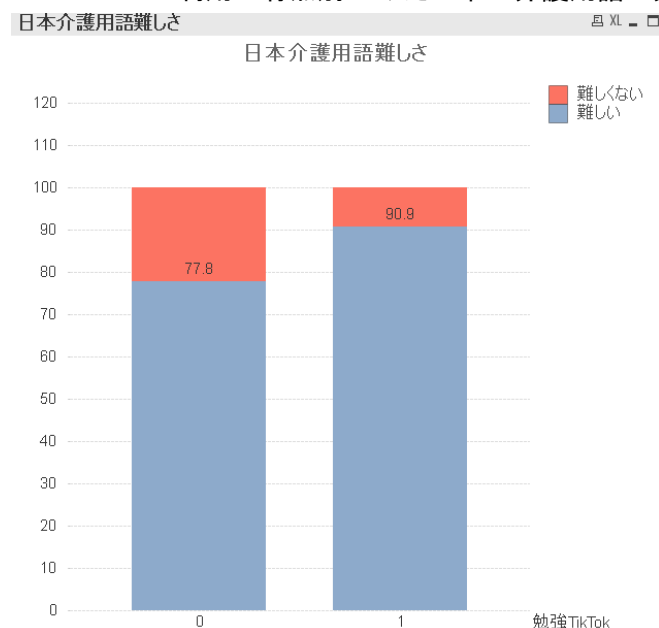
図表 4-4-2 は勉強手段としての Youtube 利用の有無別にみた日本の介護用語の難しさの状況を見たものである。Youtube を利用しない者 40.0%が難しいと回答しているのに対し、Youtube 利用者は全員が難しいと回答している。

図表 4-4-3 Instagram 利用の有無別にみた日本の介護用語の難しさ



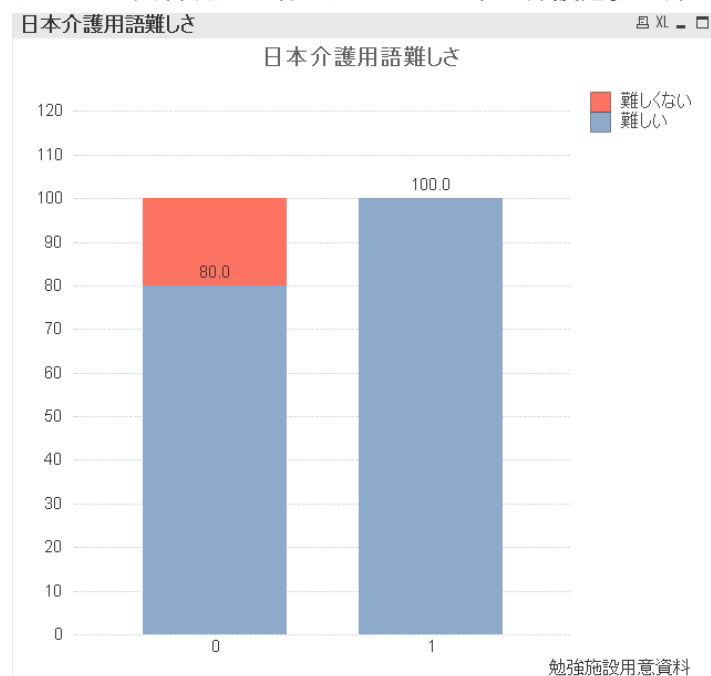
図表 4-4-3 は勉強手段としての Instagram 利用の有無別にみた日本の介護用語の難しさの状況を見たものである。Instagram を利用しない者 80.0%が難しいと回答しているのに対し、Instagram 利用者は全員が難しいと回答している。

図表 4-4-4 TikTok 利用の有無別にみた日本の介護用語の難しさ



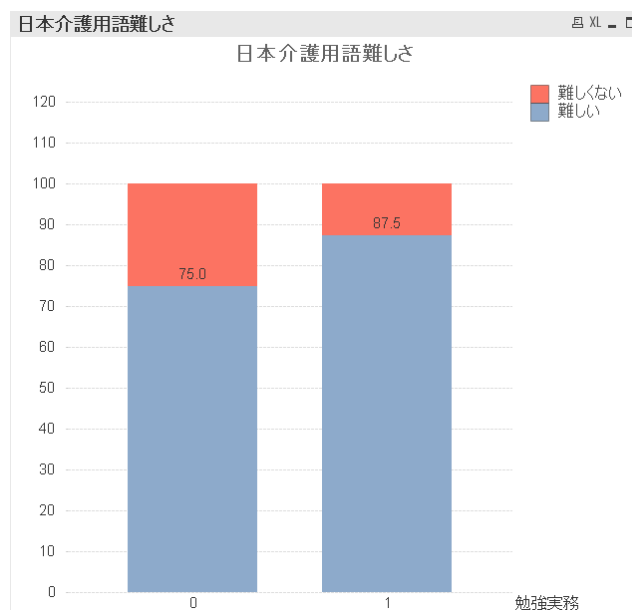
図表 4-4-4 は勉強手段としての TikTok 利用の有無別にみた日本の介護用語の難しさの状況を見たものである。TikTok を利用しない者 77.8%が難しいと回答しているのに対し、TikTok 利用者は 90.9%が難しいと回答している。

図表 4-4-5 施設が用意した資料利用の有無別にみた日本の介護勉強の難しさ



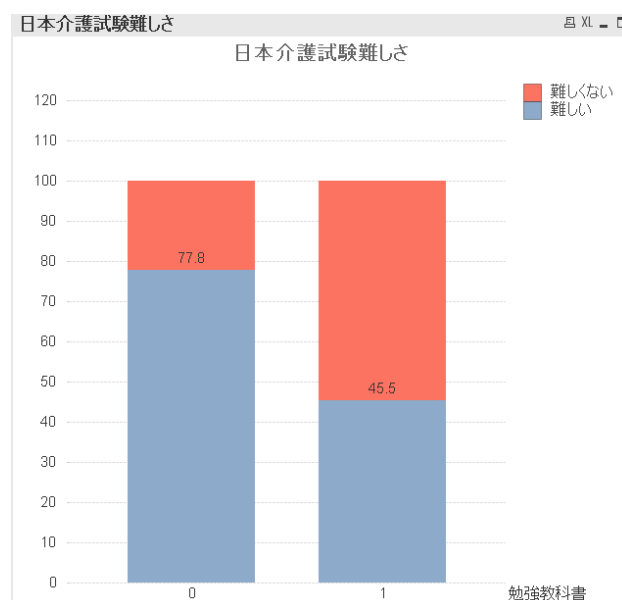
図表 4-4-5 は勉強手段としての施設が用意した資料利用の有無別にみた日本の介護用語の難しさの状況を見たものである。施設が用意した資料を利用しない者 80.0%が難しいと回答しているのに対し、施設が用意した資料利用者は全員が難しいと回答している。

図表 4-4-6 施設の同僚による実務指導の有無別にみた日本の介護用語の難しさ



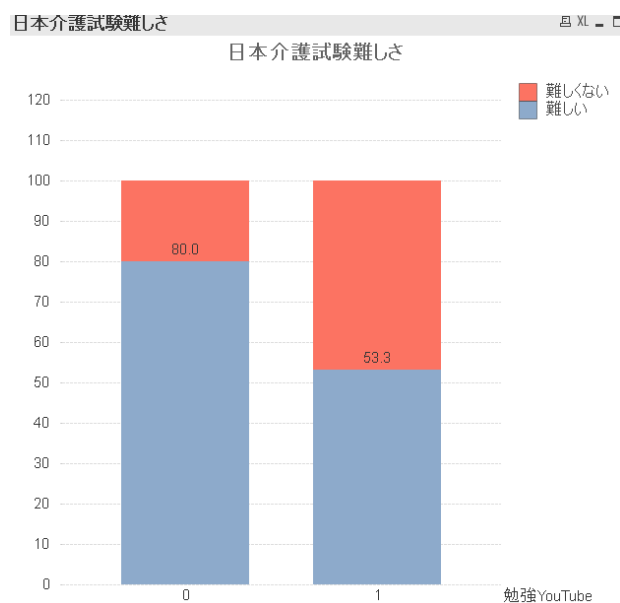
図表 4-4-6 は勉強手段としての施設の同僚による実務指導の有無別にみた日本の介護用語の難しさの状況を見たものである。施設の同僚による実務指導を利用しない者の 75.0%が難しいと回答しているのに対し、施設の同僚による実務指導利用者は 87.5%が難しいと回答している。

図表 4-5-1 教科書利用の有無別にみた日本の介護試験の難しさ



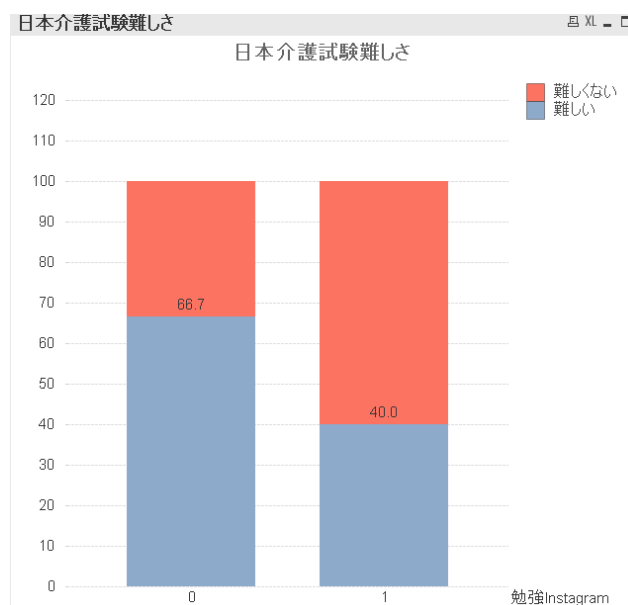
図表 4-5-1 は勉強手段としての教科書利用の有無別にみた日本の介護試験の難しさの状況を見たものである。教科書を利用しない者 77.8%が難しいと回答しているのに対し、教科書利用者は 45.5%が難しいと回答している。

図表 4-5-2 Youtube 利用の有無別にみた日本の介護試験の難しさ



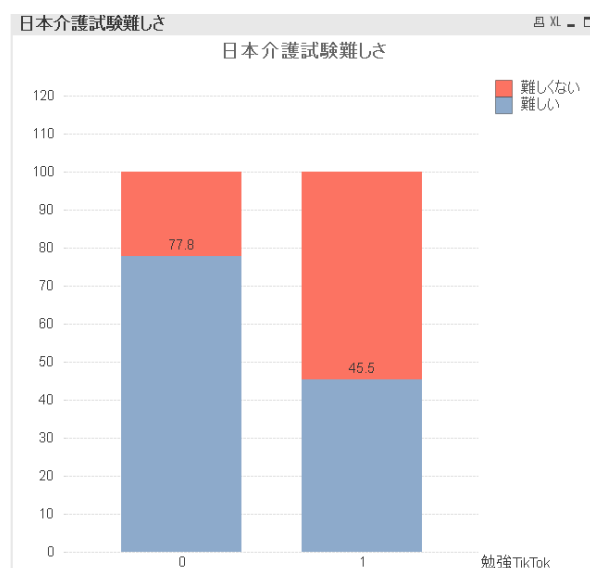
図表 4-5-2 は勉強手段としての Youtube 利用の有無別にみた日本の介護試験の難しさの状況を見たものである。Youtube を利用しない者 80.0%が難しいと回答しているのに対し、Youtube 利用者は 53.3%が難しいと回答している。

図表 4-5-3 Instagram 利用の有無別にみた日本の介護試験の難しさ



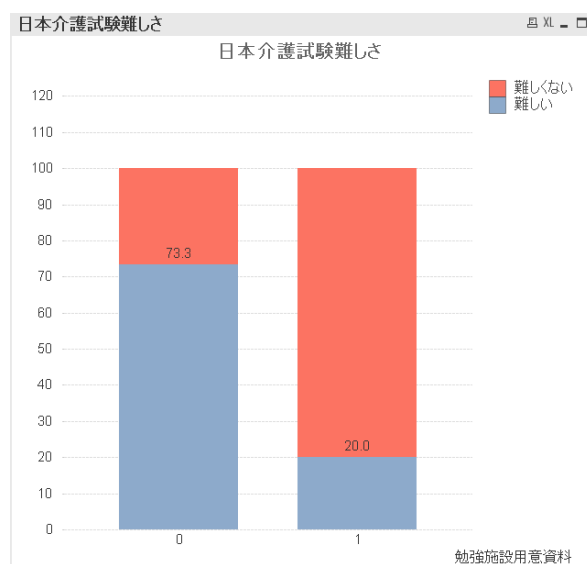
図表 4-5-3 は勉強手段としての Instagram 利用の有無別にみた日本の介護試験の難しさの状況を見たものである。Instagram を利用しない者 66.7%が難しいと回答しているのに対し、Instagram 利用者は 40.0%が難しいと回答している。

図表 4-5-4 TikTok 利用の有無別にみた日本の介護試験の難しさ



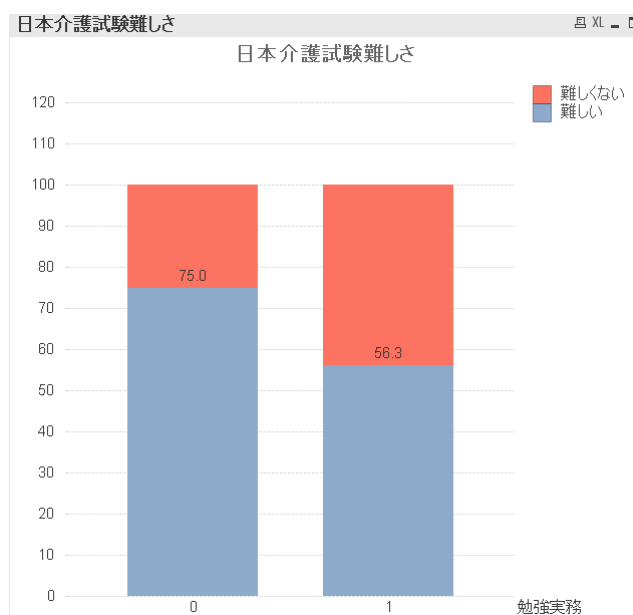
図表 4-5-4 は勉強手段としての TikTok 利用の有無別にみた日本の介護試験の難しさの状況を見たものである。TikTok を利用しない者 77.8%が難しいと回答しているのに対し、TikTok 利用者は 45.5%が難しいと回答している。

図表 4-5-5 施設が用意した資料利用の有無別にみた日本の介護試験の難しさ



図表 4-5-5 は勉強手段としての施設が用意した資料利用の有無別にみた日本の介護試験の難しさの状況を見たものである。施設が用意した資料を利用しない者の 73.3%が難しいと回答しているのに対し、施設が用意した資料利用者は 20.0%が難しいと回答している。

図表 4-5-6 施設の同僚による実務指導の有無別にみた日本の介護試験の難しさ



図表 4-5-6 は勉強手段としての施設の同僚による実務指導の有無別にみた日本の介護試験の難しさの状況を見たものである。同僚による実務指導がない者の 75.0%が難しいと回答しているのに対し、同僚による実務指導がある者は 56.3%が難しいと回答している。

以上が、日本の特定技能研修性を対象としたアンケートの分析結果であるが、傾向としてはインドネシアの専門学校生を対象としたものと同様の結果となっている。iTherapy を活用した介護の動画教材の評価は高く、全員が「わかりやすかった」、「(iTherapy を用いた動画による) 学習を継続したい」と回答していた。実際の現場でも「このような教材をもっと早く使いたかった」という意見を多く聞くことができた。分析結果から得られた興味ある知見は以下のとおりである。

- ① 大部分が日本の介護の勉強は難しいと回答しているが、施設が用意した資料の利用者で、日本の介護の勉強が「難しい」と回答している者が 60.0%と最も少なくなっている。
- ② 日本の介護用語の難しさについては全般的に難しいと回答している者が多いが、Youtube 利用者、Instagram 利用者、施設が用意した資料利用者の全員が「難しい」と回答している。
- ③ 日本の介護の試験の難しさについては、どの学習手段を利用している者でも、介護用語に比較すると「難しい」と回答している割合が低い。特に、施設が用意した資料を利用している者では「難しい」という回答が 20%と非常に低くなっている。

5. 考察

インドネシア及び国内のインドネシア人学生・実習生を対象としたアンケートを分析した結果、iTherapy を用いた介護の動画教材の有効性が確認できた。ただし、対象者の日本語及び介護用語のレベルによって、適切な動画教材の形式は異なることが示唆された。具体的には、日本語の理解がまだ不十分な学生・研修生の場合は、特定の介護行為に内容を絞ったショートムービーのようなもの（例えばTikTok）が適切であることが示唆された。実際、インドネシア人学生の多くは、TikTok の自動翻訳機能を使って、日本の介護用語等を学んでいた。しかしながら、これらの教材の内容は玉石混交あり、学習の質を向上させるためには、標準的な教科書に対応した内容のものを作成する必要がある。そこで、本事業ではインドネシアでの模擬研修の後、現地で行った反省会の内容を踏まえて、図表 5-1 に示した基本的な介護行為に関する日本語インドネシア語対訳のショートムービーを試行的に作成した。作成したショートムービーは以下の URL で閲覧可能である。

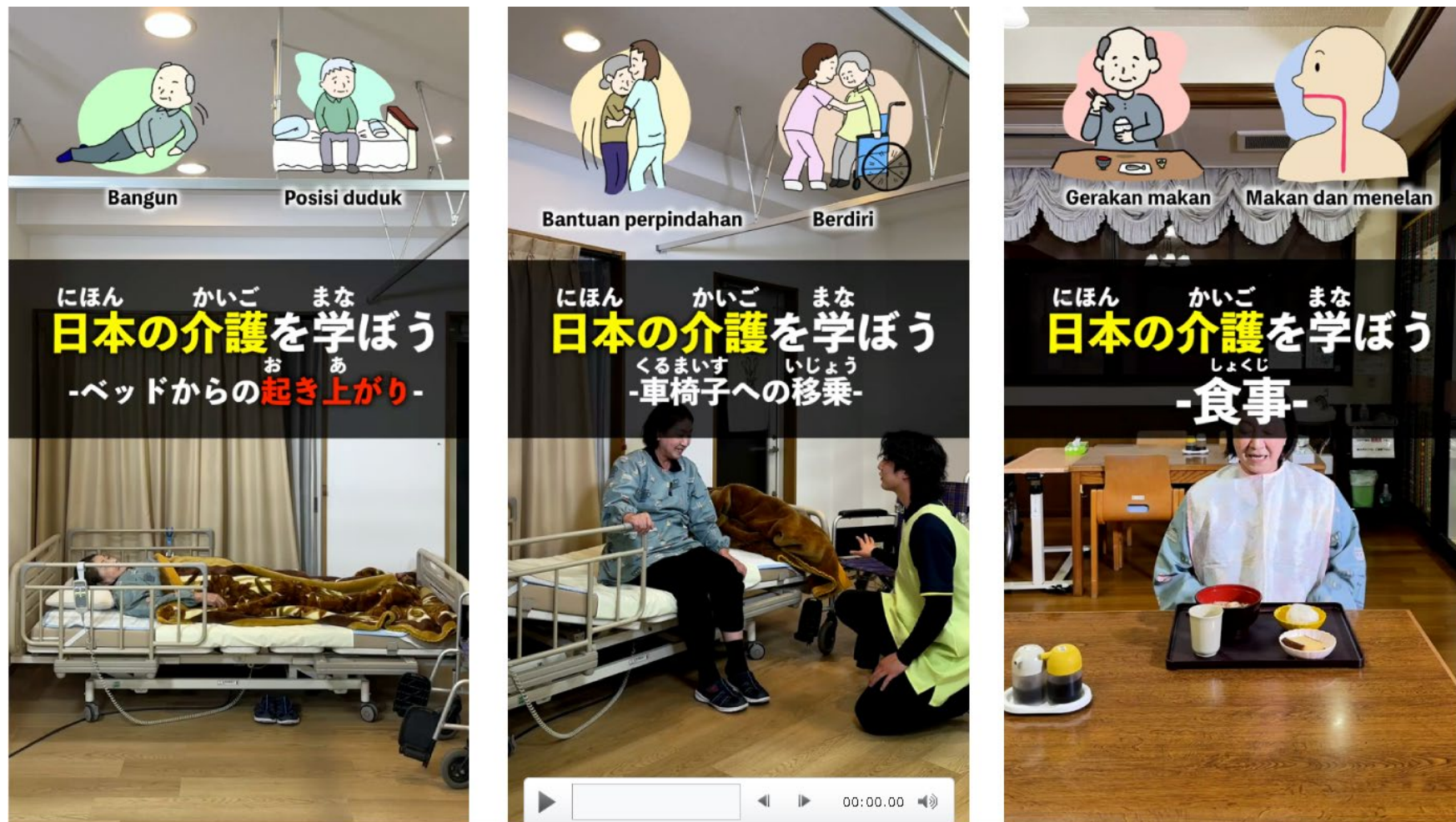
https://www.youtube.com/@itherapy_japancare/shorts

また、実際の介護場面では、日本の日常生活で用いられる言葉や生活行為に対する理解が必要となる。そのためには上記の介護要素をストーリーとして再構成した教材も必要となる。本事業ではこれについても作成し、上記 URL で公開している。

ところで、国内のインドネシア人特定技能実習生を対象としたアンケート結果では、大多数の者が「日本の介護の勉強」は難しく、また「日本の介護用語」も難しいと回答している一方で、「日本の介護の試験」については「難しい」と回答した者がほぼ半減していた。特に、施設が用意した資料を用いている実習生は「難しい」と回答している者が 20% にとどまっていた。用語が難しくても、回答の選択肢に正解が含まれている現行の択一式の試験は難易度としては下がるものと考えられた。そして、施設が用意している資料においては、介護福祉士の国家試験対策が意識されているものと推察された。試験対策を通して、日本の実際の介護業務の理解を深めるためには、その両者を有機的に連結させた学習教材が必要である。そこで、本事業では、要素別ショートムービーの後ろに、関連する過去の介護福祉士国家試験の問題を日本語・インドネシア語対訳でつける工夫を行った。今後、その有効性を確認しながら、この形式の動画教材の種類を増やす予定である。

国内の特定技能実習生を対象としたアンケート結果では、施設職員の実務における指導の効果が低い結果となっていた。その理由としては①実際の業務が教科書や施設が用意した資料より複雑であること、②指導方法の体系化がされていないこと、③言葉の問題、などが考えられる。本事業で作成した動画教材を用いることで、実際の業務に対応した標準的な指導が可能となり、また指導する日本人スタッフが、対象者の母国の言葉を部分的ではあるにしても理解することで、指導効果および学習効果を高めることが可能になると考えられる。これを実証するために川副が理事長を務めるリエゾングループでは本事業の成果を踏まえて図表 5-2 に示した研修カリキュラムを作成し、令和 7 年度から検証を行う予定である。

図表 5-1 基本的な介護行為に関する日本語インドネシア語対訳のショートムービー学習教材



図表 5-2 リエゾングループの特定技能介護技術研修カリキュラム「暮らす（class）」【案】

概要		リエゾングループ内の介護技術要素を整理し、6ヶ月コースの研修体系に整え、特定技能人材の研修素材として活用する（1回／週30分）。また、研修素材そのものを広報素材としても活用し、基礎介護への興味関心を煽り、また導入教材としても運用する。SNS用の短尺動画には、日本文化やインドネシア語会話を要素に含み、加えて、地元アーティストが作曲したオリジナルソングをBGMとして挿入し、歌を覚えることで日本の介護の優しさやおもてなしの心を伝えていく。																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																													
区切1	4月																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	ステージ1					ステージ2					ステージ3					ステージ4					ステージ5					ステージ6																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	テーマ：食事支援					テーマ：排泄支援					テーマ：入浴支援					テーマ：離床支援					テーマ：衛生環境					テーマ：住まい																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					
	暮らし1	食事誘導	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし5	排泄誘導	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし9	浴室準備	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし13	寝具調整	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし17	洗濯	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし21	安否確認	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし25	配膳配食	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし29	更衣介助	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし33	入浴誘導	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし37	体位交換	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし41	掃除	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし45	消毒清潔	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし49	食事介助	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし53	排泄介助	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし57	入浴介助	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし61	起居介助	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし65	周辺家事	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし69	除湿加湿	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし73	水分補給	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし77	汚物処理	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし81	特殊浴室	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし85	整容介助	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし89	居室衛生	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし93	買い物	名称10分 見本10分 演習10分	暮らし97																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																						

6. 今後の展開方針

今年度の事業では時間的な制約と動画教材の作成方針の変更のため、作成した動画教材を長崎県内の施設のみで試行的に用いたが、今後国内外のケアワーカー養成機関において使用した後、必要な修正を行い完成させる予定である。この教材を用いることで、外国人研修生が母国語と関連付けながら日本語でのケア技術の学習が可能となる。これにより標準的な技能を習得した後、我が国の関連国家資格を取得し、わが国の医療介護の現場で就業する外国人ケアワーカーが増加することが期待される。また、帰国後、習得した標準的なケア技術を活用して、母国の高齢者対策に貢献することも期待される。さらにこの教材を用いることで、日本人の研修担当者が、外国人実習生の母国語を理解しながら指導することで、研修の効果が高まると同時に、JICA 等で活用することで、わが国のケアワーカーがアジア諸国で介護技術を指導する教材としても活用できると考える。